

# Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/011286

International filing date: 20 June 2005 (20.06.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP  
Number: 2004-199821  
Filing date: 06 July 2004 (06.07.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 29 July 2005 (29.07.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland  
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2 0 0 4 年 7 月 6 日

出 願 番 号  
Application Number: 特 願 2 0 0 4 - 1 9 9 8 2 1

パリ条約による外国への出願  
に用いる優先権の主張の基礎  
となる出願の国コードと出願  
番号  
J P 2 0 0 4 - 1 9 9 8 2 1  
The country code and number  
of your priority application,  
to be used for filing abroad  
under the Paris Convention, is

出 願 人  
Applicant(s): 松下電器産業株式会社

2 0 0 5 年 7 月 1 3 日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小 川



【書類名】	特許願	
【整理番号】	2048160131	
【あて先】	特許庁長官殿	
【国際特許分類】	H04N 1/40	
【発明者】		
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地	松下電器産業株式会社内
【氏名】	杉尾 敏康	
【発明者】		
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地	松下電器産業株式会社内
【氏名】	樋田 博明	
【発明者】		
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地	松下電器産業株式会社内
【氏名】	西 孝啓	
【発明者】		
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地	松下電器産業株式会社内
【氏名】	遠間 正真	
【発明者】		
【住所又は居所】	大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地	松下電器産業株式会社内
【氏名】	笹井 寿郎	
【特許出願人】		
【識別番号】	000005821	
【氏名又は名称】	松下電器産業株式会社	
【代理人】		
【識別番号】	100109210	
【弁理士】		
【氏名又は名称】	新居 広守	
【手数料の表示】		
【予納台帳番号】	049515	
【納付金額】	16,000円	
【提出物件の目録】		
【物件名】	特許請求の範囲	1
【物件名】	明細書	1
【物件名】	図面	1
【物件名】	要約書	1
【包括委任状番号】	0213583	

## 【書類名】特許請求の範囲

### 【請求項 1】

音声または画像を表す信号を記録または再生する記録再生端末と、前記記録再生端末に着脱自在に接続される符号化または復号化装置とを備える記録再生装置であって、

前記記録再生端末は、

前記記録再生端末に関する情報である端末情報を格納する端末情報格納手段を備え、

前記符号化または復号化装置は、

前記記録再生端末に接続されると、前記端末情報を前記記録再生端末から取得する端末情報取得手段と、

取得された前記端末情報に基づいて、音声または画像を表す信号を符号化または復号化する符号化復号化手段とを備える

ことを特徴とする記録再生装置。

### 【請求項 2】

前記符号化または復号化装置は、さらに、

音声または画像を表す信号を符号化して得られる符号化データを格納する符号化データ格納手段を備え、

前記符号化復号化手段は、音声または画像を表す信号を符号化して、前記符号化データを前記符号化データ格納手段に格納する

ことを特徴とする請求項 1 記載の記録再生装置。

### 【請求項 3】

前記端末情報は、前記記録再生端末に内蔵される内蔵符号化または復号化装置の有無を示す情報を含み、

前記符号化復号化手段は、前記内蔵符号化または復号化装置がないことが前記端末情報に示されている場合、音声または画像を含む前記信号を符号化する

ことを特徴とする請求項 2 記載の記録再生装置。

### 【請求項 4】

前記符号化復号化手段は、前記内蔵符号化または復号化装置がないことが前記端末情報に示されている場合、前記符号化データ格納手段に格納されている前記符号化データから音声または画像を表す信号を復号して前記記録再生端末に送信し、

前記記録再生端末は、さらに、

前記符号化または復号化装置から、音声または画像を含む前記信号を受信し、再生する再生手段を備える

ことを特徴とする請求項 3 記載の記録再生装置。

### 【請求項 5】

前記端末情報は、さらに、前記内蔵符号化または復号化装置がある場合、前記内蔵符号化または復号化装置の符号化形式を示す符号化形式情報を含み、

前記符号化復号化手段は、前記符号化データ格納手段に格納されている前記符号化データの符号化形式が、前記符号化形式情報に示される符号化形式と異なる場合、前記符号化データから音声または画像を含む前記信号を復号し、前記符号化形式情報に示される符号化形式と一致する場合、前記符号化データをそのまま前記記録再生端末に送信する

ことを特徴とする請求項 4 記載の記録再生装置。

### 【請求項 6】

前記符号化復号化手段は、異なる符号化形式で符号化または復号化を行う複数の符号化復号化部を備え、

前記符号化復号化手段は、複数の前記符号化形式のうち、前記符号化データのビット数が最小となる符号化形式の前記符号化復号化部により音声または画像を表す信号を符号化する

ことを特徴とする請求項 2 記載の記録再生装置。

### 【請求項 7】

前記符号化復号化手段は、異なる符号化形式で符号化または復号化を行う複数の符号化

復号化部を備え、

前記符号化または復号化装置は、さらに、

複数の前記符号化復号化部の符号化形式を記録再生端末に通知する符号化形式通知手段を備え、

前記記録再生端末は、さらに、

前記符号化または復号化装置から通知された複数の符号化形式を表示し、利用者から1つの符号化形式の選択を受け付ける符号化形式選択手段を備え、

前記符号化復号化手段は、利用者に選択された符号化形式の前記符号化復号化部により音声または画像を表す信号を符号化する

ことを特徴とする請求項2記載の記録再生装置。

#### 【請求項8】

前記端末情報は、前記記録再生端末に内蔵される内蔵符号化または復号化装置の有無を示す情報と、前記内蔵符号化または復号化装置がある場合、前記内蔵符号化または復号化装置の符号化形式を示す符号化形式情報とを含み、

前記符号化復号化手段は、さらに、

前記符号化データ格納手段に格納されている前記符号化データの符号化形式が、(1)前記符号化形式情報に示される符号化形式と異なる場合、前記符号化データの符号化形式を前記符号化形式情報に示される符号化形式に変換し、(2)前記符号化形式情報に示される符号化形式と一致する場合、前記符号化データをそのまま前記記録再生端末に送信するトランスコーディング部を備える

ことを特徴とする請求項2記載の記録再生装置。

#### 【請求項9】

前記符号化データ格納手段は、前記符号化または復号化装置に着脱自在に接続されるメモリカードに備えられる

ことを特徴とする請求項2記載の記録再生装置。

#### 【請求項10】

前記符号化復号化手段は、ビデオ符号化と、ビデオ復号化と、音声符号化と、音声復号化と、ビデオトランスコーディングと、音声トランスコーディングのうち少なくとも1つを行う

ことを特徴とする請求項1記載の記録再生装置。

#### 【請求項11】

前記端末情報は、前記記録再生端末と前記符号化または復号化装置との間の単位時間当たりの最大データ転送量を示す情報を含み、

前記符号化復号化手段は、前記符号化データ格納手段内の前記符号化データから動画像信号を復号した場合、前記最大データ転送量情報に応じて、復号した前記動画像信号のフレームレートと解像度とのうち少なくとも1つを、前記動画像信号の単位時間当たりのデータ量が前記最大データ転送量を超えないように変換する

ことを特徴とする請求項4または請求項5記載の記録再生装置。

#### 【請求項12】

前記端末情報は、前記再生手段の適正解像度を示す解像度情報を含み、

前記符号化復号化手段は、前記符号化データ格納手段内の前記符号化データから動画像信号を復号した場合、前記解像度情報に応じて復号された前記動画像信号の解像度を前記適正解像度に変換する

ことを特徴とする請求項4または請求項5記載の記録再生装置。

#### 【請求項13】

前記符号化復号化手段は、音声または画像を含む前記信号が動画像信号である場合、前記符号化データ格納手段の空き容量に応じて、前記動画像信号のフレームレートと解像度とのうち少なくとも1つを変換し、変換後の信号を符号化する

ことを特徴とする請求項2記載の記録再生装置。

#### 【請求項14】

前記符号化または復号化装置は、さらに、

前記符号化データ格納手段に格納すべき信号を、前記記録再生端末から受信する信号受信手段を備え、

前記符号化復号化手段は、受信された前記信号が符号化データならば、符号化せずにそのまま格納する

ことを特徴とする請求項 2 記載の記録再生装置。

【請求項 15】

音声または画像を表す信号を記録または再生する記録再生端末に着脱自在に接続される符号化または復号化装置であって、

前記記録再生端末に接続されると、前記記録再生端末に関する情報である端末情報を前記記録再生端末から取得する端末情報取得手段と、

取得された前記端末情報に基づいて、音声または画像を表す信号を符号化または復号化する符号化復号化手段とを備える

ことを特徴とする符号化または復号化装置。

【請求項 16】

前記符号化または復号化装置は、さらに、

音声または画像を表す信号を符号化して得られる符号化データを格納する符号化データ格納手段を備え、

前記符号化復号化手段は、音声または画像を表す信号を符号化して、前記符号化データを前記符号化データ格納手段に格納する

ことを特徴とする請求項 15 記載の符号化または復号化装置。

【請求項 17】

前記端末情報は、前記記録再生端末に内蔵される内蔵符号化または復号化装置の有無を示す情報と、前記内蔵符号化または復号化装置がある場合、前記内蔵符号化または復号化装置の符号化形式を示す符号化形式情報とを含み、

前記符号化復号化手段は、さらに、

前記符号化データ格納手段に格納されている前記符号化データの符号化形式が、(1) 前記符号化形式情報に示される符号化形式と異なる場合、前記符号化データの符号化形式を前記符号化形式情報に示される符号化形式に変換し、(2) 前記符号化形式情報に示される符号化形式と一致する場合、前記符号化データをそのまま前記記録再生端末に送信するトランスコーディング部を備える

ことを特徴とする請求項 16 記載の符号化または復号化装置。

【請求項 18】

前記符号化復号化手段は、異なる符号化形式で符号化または復号化を行う複数の符号化復号化部を備え、

前記符号化復号化手段は、複数の前記符号化形式のうち、前記符号化データのビット数が最小となる符号化形式の前記符号化復号化部により音声または画像を表す信号を符号化する

ことを特徴とする請求項 16 記載の符号化または復号化装置。

【請求項 19】

前記符号化復号化手段は、音声または画像を含む前記信号が動画像信号である場合、前記符号化データ格納手段の空き容量に応じて、前記動画像信号のフレームレートと解像度とのうち少なくとも 1 つを変換し、変換後の信号を符号化する

ことを特徴とする請求項 16 記載の符号化または復号化装置。

【請求項 20】

前記符号化データ格納手段は、前記符号化または復号化装置に着脱自在に接続されるメモ리카ードに備えられる

ことを特徴とする請求項 16 記載の符号化または復号化装置。

【請求項 21】

前記符号化復号化手段は、ビデオ符号化と、ビデオ復号化と、音声符号化と、音声復号

化と、ビデオトランスコーディングと、音声トランスコーディングのうち少なくとも1つを行う

ことを特徴とする請求項15記載の符号化または復号化装置。

【請求項22】

請求項15～21のいずれか1項に記載の各手段を備えた情報処理装置。

【請求項23】

音声または画像を表す信号を記録または再生する記録再生端末に着脱自在に接続される符号化または復号化装置のためのプログラムであって、

コンピュータを前記記録再生端末に接続されると、前記記録再生端末に関する情報である端末情報を前記記録再生端末から取得する端末情報取得手段と、取得された前記端末情報に基づいて、音声または画像を表す信号を符号化または復号化する符号化復号化手段として機能させるプログラム。

【請求項24】

音声または画像を表す信号を記録または再生する記録再生端末であって、

音声または画像を表す信号を符号化または復号化する符号化または復号化装置を着脱自在に接続する接続手段と、

前記記録再生端末に関する情報である端末情報を格納する端末情報格納手段とを備え、

前記記録再生端末は、前記接続手段に前記符号化または復号化装置が接続されると、格納されている前記端末情報を前記符号化または復号化装置に送信する

ことを特徴とする記録再生端末。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 符号化または復号化装置、記録再生装置及び記録再生端末

【技術分野】

【０００１】

本発明は、映像信号や音声信号を圧縮符号化する取り外し可能な符号化または復号化装置及びその符号化または復号化装置を備える記録再生装置等に関する。

【背景技術】

【０００２】

地上波デジタル放送の開始や、カメラ付き携帯などの普及により、映像や音声をハードディスクや蓄積メディア等に保存するコーデック手法が多様化している。例えば、映像の分野ではMPEG2、MPEG4やMPEG4-AVC、音声の分野ではAMRやMPEG4-AACなどが知られている。DVDレコーダやカメラ付き携帯電話機および車載端末などの製品は、各機器間のAV連携をとるために、製品本来のメイン機能とは別に上記複数のコーデック手法を専用LSIやソフトとして搭載する。これにより、製品のコストが上昇している。また、規格等で使用するコーデック手法が変化した場合、古い製品は新しいコーデック手法による符号化データを受け取る手段を備えていたとしても、それを復号化する手段を備えていないため、受け取った符号化データから映像や音声を再生することができない。さらに、どのようなコーデック手法の復号化装置を製品に搭載するかはメーカー側のお仕着せになっており、ユーザは製品を購入する際に必要なコーデック手法を選択することができず、頻繁に使用しないコーデック手法にまで料金を支払う必要がある。

【０００３】

上記課題を解決するための例として、以下のような特許文献が開示されている。

第１の例は、様々な符号化方式に対応したデータ再生装置に関するものである。

図２４は、第１の例である従来の携帯型データ再生装置の構成を示すブロック図である。携帯型データ再生装置７００は、符号化データとその符号化データを復号するデコードプログラムとを格納した半導体メモリカード７０１がスロットに挿入されれば、半導体メモリカード７０１内のデコードプログラムをデコード手段７０２内のメモリ７０３にロードする。そして次に半導体メモリカード７０１内の符号化データを読み出し、メモリ７０３にロードしたデコードプログラムを用いて符号化データを復号して再生する。図２４のような構造にすれば、半導体メモリカード７０１内のデコードプログラムを変更することで、携帯型データ再生装置１は様々な符号化方式に対応できる（特許文献１参照。）。

【０００４】

第２の例は、PCカード間におけるビデオデータ転送の効率向上に関するものである。このシステムを利用した動画像エンコードシステムの構成例を図２５に示す。図２５は、第２の例である従来の動画像エンコードシステムの構成を示すブロック図である。図２５では、外部のビデオカセットレコーダ（VCR）８０１から入力したビデオ信号をビデオキャプチャボード８０２でデジタル化し、PCIバス８０５を使用しないカード間ダイレクトバス８０４を用いてエンコードカード８０３に入力する。エンコードカード８０３は入力されたデジタルのビデオ信号を符号化し、PCIバス８０５経由でシステムのメモリ８０７に転送される。これにより、ビデオデータなどをシステムバスを介さずにPCカード間で直接転送できるようになり、CPU８０８の負荷を軽減し、システムバスの性能に依存しない複数のPCカードを使用したシステムを構築できる。以上の動画像エンコードシステムを用いれば、エンコードカードを差し替えることによって様々な符号化方式に対応したエンコードシステムを構築することができる（特許文献２参照。）。

【特許文献１】 特開２０００－１３２３７号公報

【特許文献２】 特開平９－２３７１６６号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

しかしながら、特開２０００－１３２３７では、携帯型データ再生装置７００はデコー



ド手段702を実現するためのLSIを搭載する必要があるため、再生装置のコストを削減できるわけではなく、上記課題を完全には解決できない。また、記録装置に関する内容は記載されていない。

【0006】

また、特開平9-237166では、記録装置側に複数のPCIスロットを用意し、カード間ダイレクトバスを持つPCカードコントローラを備える必要があり、記録装置への実装負担が大きい。また、符号化データをエンコードシステム内部のメモリに格納するため、エンコードカード803に符号化データを格納し、他の機器に挿入して復号するといったことができないため、AV機器間でビデオデータなどのデータを共有するといったAV機器の連携に不向きである。

【0007】

本発明は、上記課題を解決するためになされたもので、多様なコーデック手法に対応できる符号化または復号化装置およびそのような符号化または復号化装置を備えた記録再生端末を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するため、本発明の記録再生装置は、音声または画像を表す信号を記録または再生する記録再生端末と、前記記録再生端末に着脱自在に接続される符号化または復号化装置とを備える記録再生装置であって、前記記録再生端末は、前記記録再生端末に関する情報である端末情報を格納する端末情報格納手段を備え、前記符号化または復号化装置は、前記記録再生端末に接続されると、前記端末情報を前記記録再生端末から取得する端末情報取得手段と、取得された前記端末情報に基づいて、音声または画像を表す信号を符号化または復号化する符号化復号化手段とを備えることを特徴とする。

【0009】

また、本発明において、前記符号化または復号化装置は、さらに、音声または画像を表す信号を符号化して得られる符号化データを格納する符号化データ格納手段を備え、前記符号化復号化手段は、音声または画像を表す信号を符号化して、前記符号化データを前記符号化データ格納手段に格納するとしてもよい。

【0010】

さらに、本発明において、前記端末情報は、前記記録再生端末に内蔵される内蔵符号化または復号化装置の有無を示す情報を含み、前記符号化復号化手段は、前記内蔵符号化または復号化装置がないことが前記端末情報に示されている場合、音声または画像を含む前記信号を符号化するとしてもよい。

【0011】

さらに、本発明において、前記符号化復号化手段は、前記内蔵符号化または復号化装置がないことが前記端末情報に示されている場合、前記符号化データ格納手段に格納されている前記符号化データから音声または画像を表す信号を復号して前記記録再生端末に送信し、前記記録再生端末は、さらに、前記符号化または復号化装置から、音声または画像を含む前記信号を受信し、再生する再生手段を備えるとしてもよい。

【0012】

また、本発明において、前記端末情報は、さらに、前記内蔵符号化または復号化装置がある場合、前記内蔵符号化または復号化装置の符号化形式を示す符号化形式情報を含み、前記符号化復号化手段は、前記符号化データ格納手段に格納されている前記符号化データの符号化形式が、前記符号化形式情報に示される符号化形式と異なる場合、前記符号化データから音声または画像を含む前記信号を復号し、前記符号化形式情報に示される符号化形式と一致する場合、前記符号化データをそのまま前記記録再生端末に送信するとしてもよい。

【0013】

また、本発明において、前記符号化復号化手段は、異なる符号化形式で符号化または復号化を行う複数の符号化復号化部を備え、前記符号化復号化手段は、複数の前記符号化形

式のうち、前記符号化データのビット数が最小となる符号化形式の前記符号化復号化部により音声または画像を表す信号を符号化するとしてもよい。

【0014】

さらに、本発明において、前記符号化復号化手段は、異なる符号化形式で符号化または復号化を行う複数の符号化復号化部を備え、前記符号化または復号化装置は、さらに、複数の前記符号化復号化部の符号化形式を記録再生端末に通知する符号化形式通知手段を備え、前記記録再生端末は、さらに、前記符号化または復号化装置から通知された複数の符号化形式を表示し、利用者から1つの符号化形式の選択を受け付ける符号化形式選択手段を備え、前記符号化復号化手段は、利用者に選択された符号化形式の前記符号化復号化部により音声または画像を表す信号を符号化するとしてもよい。

【0015】

また、本発明において、前記端末情報は、前記記録再生端末に内蔵される内蔵符号化または復号化装置の有無を示す情報と、前記内蔵符号化または復号化装置がある場合、前記内蔵符号化または復号化装置の符号化形式を示す符号化形式情報とを含み、前記符号化復号化手段は、さらに、前記符号化データ格納手段に格納されている前記符号化データの符号化形式が、(1)前記符号化形式情報に示される符号化形式と異なる場合、前記符号化データの符号化形式を前記符号化形式情報に示される符号化形式に変換し、(2)前記符号化形式情報に示される符号化形式と一致する場合、前記符号化データをそのまま前記記録再生端末に送信するトランスコーディング部を備えるとしてもよい。

【0016】

さらに、本発明において、前記符号化データ格納手段は、前記符号化または復号化装置に着脱自在に接続されるメモリカードに備えられるとしてもよい。

また、本発明において、前記符号化復号化手段は、ビデオ符号化と、ビデオ復号化と、音声符号化と、音声復号化と、ビデオトランスコーディングと、音声トランスコーディングのうち少なくとも1つを行うとしてもよい。

【0017】

さらに、本発明において、前記端末情報は、前記記録再生端末と前記符号化または復号化装置との間の単位時間当たりの最大データ転送量を示す情報を含み、前記符号化復号化手段は、前記符号化データ格納手段内の前記符号化データから動画像信号を復号した場合、前記最大データ転送量情報に応じて、復号した前記動画像信号のフレームレートと解像度とのうち少なくとも1つを、前記動画像信号の単位時間当たりのデータ量が前記最大データ転送量を超えないように変換するとしてもよい。

【0018】

また、本発明において、前記端末情報は、前記再生手段の適正解像度を示す解像度情報を含み、前記符号化復号化手段は、前記符号化データ格納手段内の前記符号化データから動画像信号を復号した場合、前記解像度情報に応じて復号された前記動画像信号の解像度を前記適正解像度に変換するとしてもよい。

【0019】

さらに、本発明において、前記符号化復号化手段は、音声または画像を含む前記信号が動画像信号である場合、前記符号化データ格納手段の空き容量に応じて、前記動画像信号のフレームレートと解像度とのうち少なくとも1つを変換し、変換後の信号を符号化するとしてもよい。

【0020】

また、本発明において、前記符号化または復号化装置は、さらに、前記符号化データ格納手段に格納すべき信号を、前記記録再生端末から受信する信号受信手段を備え、前記符号化復号化手段は、受信された前記信号が符号化データならば、符号化せずにそのまま格納するとしてもよい。

【0021】

なお、本発明は、このような符号化または復号化装置や記録再生端末として実現することができるだけでなく、このような符号化または復号化装置や記録再生端末が備える特徴

的な手段をステップとする符号化または復号化方法や記録再生方法として実現したり、それらのステップをコンピュータに実行させるプログラムとして実現したりすることもできる。そして、そのようなプログラムは、ＣＤ－ＲＯＭ等の記録媒体やインターネット等の伝送媒体を介して配信することができるのは言うまでもない。

#### 【発明の効果】

##### 【００２２】

以上のように、本発明の記録再生装置によれば、記録再生端末に着脱可能な符号化または復号化装置を接続するだけで音声または画像を表す信号の符号化および復号化を行うことができるという効果を有する。また、記録再生端末にコーデックＬＳＩやソフトコーデックを搭載する必要がなくなり、コストの削減につながるという効果を有する。また、規格等で使用するコーデック手法に変更が生じた場合でも、新しいコーデック手法に対応した符号化または復号化装置を挿入すれば、古い記録再生端末でも対応可能となるという効果を有する。また、ユーザは使用用途に応じて符号化または復号化装置を交換することができ、ユーザ嗜好に基づいた記録再生端末を提供することができる、という効果を有する。

##### 【００２３】

また、本発明によると、符号化または復号化装置を入れ替えることによって、ビデオまたは音声の符号化、復号化およびトランスコーディングを切り替えることができる、という効果を有する。

##### 【００２４】

また、本発明によると、符号化または復号化装置が記録再生端末に挿入されると、符号化または復号化装置は記録再生端末の端末情報を取得するため、ビデオ等の符号化および復号化を行う度に端末情報を取得する必要がなくなる、という効果を有する。

##### 【００２５】

また、本発明によると、生成した符号化データを符号化または復号化装置の符号化データ格納手段に格納するため、いろいろな記録再生端末間で符号化または復号化装置を交換し、符号化または復号化装置内の符号化データ格納手段に格納された符号化データを再生することが可能となり、記録再生端末間のＡＶ連携が容易になる、という効果を有する。

##### 【００２６】

また、本発明によると、記録再生端末と符号化または復号化装置との間の最大データ転送量情報を取得することによって、符号化または復号化装置で復号したビデオのフレームレートまたは解像度を前記最大データ転送量に応じて変換することが可能となり、記録再生端末でのリアルタイム再生または、復号時より高画質なビデオの再生が可能となる、という効果を有する。

##### 【００２７】

また、本発明によると、記録再生装置の表示デバイスに適当な解像度情報を取得することによって、符号化または復号化装置は復号したビデオの解像度を記録再生装置にあわせて変換することができ、符号化または復号化装置を挿入する端末毎に適当な解像度のビデオを出力することができる、という効果を有する。

##### 【００２８】

また、本発明によると、記録再生端末の持つ内蔵符号化装置情報を取得し、記録再生端末が復号できる符号化形式は符号化データとして転送することによって、サイズの大きい復号後のビデオを転送するよりも転送量を抑えることができる、という効果を有する。

##### 【００２９】

また、本発明によると、記録再生端末で作成した符号化データを符号化または復号化装置内の内部メモリ内に直接格納することが可能となり、複数の符号化形式を内部メモリに保持することができる、という効果を有する。

##### 【００３０】

また、本発明によると、符号化または復号化装置の内部メモリの空き容量に応じて、記録再生端末から受信したビデオのフレームレートおよび解像度を低下させることによって

、記録中に内部メモリの空き容量が不足することを防止できる、という効果を有する。

#### 【００３１】

また、本発明によると、記録再生端末が新しいコーデック形式に対応していない古い製品でも、ＳＤスロット等の汎用スロットさえ保持していれば、符号化または復号化装置で新しいコーデック形式の符号化データにトランスコーディングすることにより、再生が可能となる、という効果を有する。

#### 【００３２】

また、本発明によると、符号化データを格納する符号化データ格納手段が符号化または復号化装置から取り外し可能となり、符号化データを格納するメモリの空き容量が不足した場合に、符号化または復号化装置自体を取り替えずに、半導体メモリだけを交換することによって、新たなビデオの符号化および復号化を行うことができる、という効果を有する。

#### 【発明を実施するための最良の形態】

#### 【００３３】

以下、図面を参照しながら本発明の実施の形態について説明する。

##### （実施の形態１）

本実施の形態１の記録再生装置は、記録再生端末には符号化装置を内蔵せず、内蔵カメラで撮影したビデオデータ等を着脱自在なリムーバブル型符号化装置で符号化し、符号化されたビデオデータ等を内蔵のメモリ等に格納する。なお、実施の形態１では、リムーバブル型符号化装置の信号変換部としてＭＰＥＧ４－ＡＶＣコーデック、記録再生端末の接続スロットとしてＳＤスロット、ビデオデータの形式としてＹＵＶ形式を例にとって説明する。また、本実施の形態１では、記録再生端末には符号化装置が内蔵されていないものとする。

#### 【００３４】

図１は、本発明の実施の形態１の記録再生装置の一例を表すブロック図である。記録再生装置は、リムーバブル型符号化装置１００及び記録再生端末１０３を備え、リムーバブル型符号化装置１００と記録再生端末１０３とは、例えば、ＳＤスロット１０４などのカードスロットを介して相互に接続される。このリムーバブル型符号化装置１００は、記録再生端末１０３から取得されたビデオデータ等を符号化して内部メモリに格納し、内部メモリに格納されている符号化データを復号して記録再生端末１０３に送信する機能を備えた符号化装置であって、記録再生端末１０３から端末情報を取得し、格納する端末情報取得部１０１と、ＭＰＥＧ４－ＡＶＣコーデック処理を行う信号変換部１０２とを備える。信号変換部１０２は、さらに、内部メモリ１０６を備え、内部メモリ１０６は、端末情報取得部１０１によって取得された端末情報を格納する他、信号変換部１０２によって符号化された符号化データを格納する。

#### 【００３５】

記録再生端末１０３は、記録再生端末１０３とリムーバブル型符号化装置１００との間のデータのやり取りに使用するＳＤスロット１０４、記録再生端末１０３の端末情報を格納している端末情報格納部１０５、ビデオや静止画像を撮影するカメラ１０７、画像やテキストを表示するためのディスプレイ１０８を備える。

#### 【００３６】

記録再生端末１０３は、リムーバブル型符号化装置１００がＳＤスロット１０４に挿入されると、端末情報格納部１０５に格納されている端末情報を、例えば、ＳＤインターフェースなどを介してリムーバブル型符号化装置１００に転送する。また、記録再生端末１０３は内蔵のカメラ１０７等で撮影したビデオデータや、ビデオデータ以外の通信等で得られた符号化済みの符号化データや、テキストファイル等のデータをリムーバブル型符号化装置１００に転送することによって、リムーバブル型符号化装置１００の端末情報取得部１０１をデータの格納部として利用する。そして、ビデオデータを再生する場合や、テキストデータを表示する場合には、リムーバブル型符号化装置１００から対象データを読み込み、ディスプレイに表示する。

#### 【0037】

リムーバブル型符号化装置100は、記録再生端末103からSDインターフェースを介して転送されてきた端末情報を、端末情報取得部101によって受信し、記録再生端末103の最大データ転送量情報や解像度情報および内蔵符号化装置情報を取得する。そして、記録再生端末103からデータが転送されると、データの種別に応じて変換処理を加えた後、内部メモリ106に格納する。また、記録再生端末103に内部メモリ106のデータを転送する際にも、データの種別に応じて変換処理を加え、記録再生端末103に転送する。例えば、内部メモリ106内のデータがMP E G 2で符号化されている場合には、符号化データをMP E G 2で復号化して記録再生端末103に送出する。

#### 【0038】

次に、実施の形態1における記録再生端末103からリムーバブル型符号化装置100の内部メモリ106へのデータ転送について図2を用いて説明する。図2は、記録再生端末103からリムーバブル型符号化装置100の内部メモリ106へデータを転送する際の記録再生装置の動作を示すフローチャートである。まず、記録再生端末103は内蔵のカメラ107等で撮影したY U V形式のビデオデータや、それ以外の通信等で得られた符号化済みの符号化データやテキストファイル等のデータを、SDインターフェースを介してリムーバブル型符号化装置100に転送する（ステップS10）。信号変換部102は受信したデータがビデオデータかどうかを判定し（ステップS11）、ビデオデータならばMP E G 4－A V C方式で符号化して信号変換部102内の内部メモリ106に格納する（ステップS12）。信号変換部102によって受信されたデータがビデオデータでなければ、受信したデータをそのまま内部メモリ106に格納する（ステップS13）。

#### 【0039】

次に、実施の形態1におけるリムーバブル型符号化装置100の内部メモリ106から記録再生端末103へのデータ転送の流れについて図3を用いて説明する。図3は、リムーバブル型符号化装置100の内部メモリ106から記録再生端末103へデータを転送する際の記録再生装置の動作を示すフローチャートである。まず、記録再生端末103からリムーバブル型符号化装置100にデータ転送要求が発生すると（ステップS20）、端末情報取得部101は記録再生端末103の端末情報を、信号変換部102に送信する（ステップS21）。次に信号変換部102は、再生要求のあったデータが符号化データかどうかを判定し（ステップS22）、符号化データでなければ、そのまま記録再生端末103に転送する（ステップS27）。転送要求のあったデータが符号化データならば、その符号化形式が記録再生端末103の内蔵符号化装置情報の符号化形式と一致するか否かを判定することにより、記録再生端末103で復号可能かどうかを判定する（ステップS23）。そして、記録再生端末103で復号可能ならば、符号化データをそのまま記録再生端末103に転送する（ステップS27）。ただし、本実施の形態1では、記録再生端末103に符号化装置が内蔵されていない場合を想定しているため、端末情報には、記録再生端末103に符号化装置が内蔵されていない旨が記述されている。このような場合、信号変換部102は、ステップS23において、再生要求のあったデータがどのような符号化形式の符号化データであっても記録再生端末103で復号不可能と判定する。

#### 【0040】

再生要求のあったデータが符号化データであり、記録再生端末103で復号不可能ならば、信号変換部102は、符号化データをリムーバブル型符号化装置100内で復号可能かどうかを判定し（ステップS24）、復号可能ならば内部メモリ106の符号化データを復号する。そして、端末情報取得部101が取得した最大データ転送量情報と解像度情報によってフレームレートと解像度を変換し、変換後のビデオデータを記録再生端末103に転送する（ステップS25）。リムーバブル型符号化装置内でも復号不可能の場合は、記録再生端末103に再生不可能の信号を送る（ステップS26）。

#### 【0041】

なお、記録再生端末103が符号化装置を内蔵している場合、記録再生端末103は、リムーバブル型符号化装置100から受信したデータが符号化データならば内蔵する符号

化装置で復号して再生し、リムーバブル型符号化装置 100 から受信したデータが符号化されていないビデオデータやテキストデータの場合は、そのまま再生または表示するものとする。

#### 【0042】

なお、ステップ S21 はステップ S22 と S23 の間に行っても構わない。また、ステップ S26 の再生不可能の信号は、記録再生端末 103 に再生ができないことが伝われば、エラー信号等のどのような方法であっても構わない。

#### 【0043】

次に、端末情報取得部 101 が取得する記録再生端末 103 の端末情報のフォーマット例を図 4 に示す。図 4 (a) は、端末情報の記述の一例を示す表である。図 4 (b) は、端末情報に示される各項目の ID と ID が示す各項目の内容との関係を示す端末情報テーブルの一例を示す表である。図 4 (a) に示すように、端末情報は最大データ転送量情報、解像度情報及び内蔵符号化装置情報の内容がそれぞれ ID で記述される。最大データ転送量情報は、記録再生端末 103 の持つ SD インターフェースの最大データ転送量を示している。図 4 (b) に示すように、最大データ転送量情報の ID が「0」のとき、記録再生端末 103 の SD インターフェースの最大データ転送量は 2 MByte/sec であり、ID が「1」のとき、最大データ転送量は 4 MByte/sec であり、ID が「2」のとき、最大データ転送量は 8 MByte/sec である。また、解像度情報は、記録再生端末 103 のディスプレイ 108 に適切な解像度を示している。図 4 (b) に示すように、解像度情報の ID が「0」のとき、適切な解像度は「Sub QCIF」であり、ID が「1」のとき適切な解像度は「QCIF」である。また、解像度情報の ID が「2」のとき、適切な解像度は「VGA」であり、解像度情報の ID が「3」のとき、適切な解像度は「SD」である。内蔵符号化装置情報は、記録再生端末 103 に内蔵される内蔵符号化装置の符号化形式を示している。図 4 (b) の端末情報テーブルに示すように、内蔵符号化装置情報の ID が「0」のとき、記録再生端末 103 には符号化装置が内蔵されていない。また、内蔵符号化装置情報の ID が「1」のとき、内蔵されている符号化装置の符号化形式は「MPEG2」であり、内蔵符号化装置情報の ID が「2」のとき、内蔵されている符号化装置の符号化形式は「MPEG4-SP」である。また、内蔵符号化装置情報の ID が「3」のとき、記録再生端末 103 に内蔵されている符号化装置の符号化形式は「MPEG4-ASP」である。このように、端末情報に記述されている各項目の内容は図 3 の端末情報テーブル内の ID 番号で識別される。従って、図 4 (a) の端末情報の例では、記録再生端末 103 の最大データ転送量は 8 MByte/sec、適切な解像度は QVGA、符号化装置は内蔵されていないということが表わされている。

#### 【0044】

次に、本実施の形態 1 における信号変換部 102 の構成について説明する。図 5 は、本実施の形態 1 における信号変換部 102 の内部構造を示したブロック図である。図 5 に示すように信号変換部 102 は、端末情報取得部 101 からの端末情報によって各部を制御する制御部 201 と、MPEG4-AVC のエンコード処理を行う MPEG4-AVC エンコード部 202 と、MPEG4-AVC のデコード処理を行う MPEG4-AVC デコード部 203 と、ビデオの解像度変換を行う解像度変換部 204 と、ビデオのフレームレートを変換するフレームレート変換部 205 と、符号化データやテキストデータの格納および作業用メモリとして用いる内部メモリ 106 と、データバス 207 から成る。

#### 【0045】

次に、データバス 207 に記録再生端末 103 からデータが転送されてきた場合の信号変換部 102 の動作について図 6 を用いて説明する。図 6 は、記録再生端末 103 からデータが転送されてきた場合の信号変換部 102 の動作を示すフローチャートである。まず、データバス 207 にデータが入力されると、制御部 201 は入力データがビデオデータかどうかを判定する（ステップ S30）。入力データがビデオデータならば、制御部 201 は入力ビデオデータの符号化後のデータサイズが、内部メモリ 106 の空き容量を越え

ないように、フレームレートと解像度とをパラメータとして、入力ビデオデータを変換処理するための変換パラメータを、第一の所定の方法に従って決定する。そして、決定した変換パラメータをフレームレート変換部205と解像度変換部204とに送信する（ステップS31）。フレームレート変換部205は、受信した変換パラメータを用いてビデオデータのフレームレートを変換し、変換後のビデオデータを解像度変換部204に転送する（ステップS32）。解像度変換部204は、受信した変換パラメータの値に従ってビデオの解像度を変換し、変換後のビデオデータをMPEG4-AVCエンコード部202に転送する（ステップS33）。MPEG4-AVCエンコード部202は、入力されたビデオデータをMPEG4-AVC形式で符号化し、符号化データを内部メモリ106に格納する（ステップS34）。データバス207にビデオデータ以外が入力された場合は、制御部201は入力データをそのまま内部メモリ106に格納する（ステップS35）。

#### 【0046】

なお、ステップS32のフレームレート変換とステップS33の解像度変換の順番は逆であっても構わない。

次にビデオデータの変換パラメータを求める第一の所定の方法について説明する。図7は、ビデオデータの変換パラメータを求める場合の手順を示すフローチャートである。ここでは、内部メモリ106の空き容量に応じてビデオデータのフレームレートと解像度とを調節し、符号化データが内部メモリ106の空き領域に格納できるように制御している。制御部201はビデオデータのヘッダ等に格納されているビデオ情報から、ビデオのフレームレートと解像度とを取得する。そして、図7のフローチャートに従って、内部メモリ106の空き容量に応じてビデオのフレームレートと解像度とを変換するための変換パラメータを決定する。以下、図7のフローチャートを用いて、変換パラメータの決定法について説明する。まず、入力されたビデオデータのフレームレートと解像度とを、初期値として、それぞれ変数framerateと変数resolutionに設定する（ステップS40）。なお、変数framerateには入力ビデオデータのフレームレートの数値を、変数resolutionには図4の解像度情報に付加するID番号のように、解像度が大きくなるほど番号が上昇するID番号を格納する。次に、内部メモリ106の空き容量が閾値TH-frよりも小さく、かつ、変数framerateが「1」より大きいかどうかを判定し（ステップS41）、判定結果が真ならば、framerateの値を「1」減らし、閾値TH-frの値を半分にする（ステップS42）。そして再びステップS41の判定を行う。これらステップS41とS42とを繰り返すことにより、内部メモリ106の空き容量に応じてビデオのフレームレートを減少させるための変数framerateを求める。次に、ステップS41の判定結果が偽になれば、ステップS43に進み、変数framerateが「1」以下で、かつ、内部メモリ106の空き容量が閾値TH-reより小さく、かつ、変数resolutionが「0」より大きいかを判定する。ステップ43で判定結果が真ならば、変数resolutionの値を「1」減らし、閾値TH-reの値を半分にしてから再びステップS43の判定を行う。これらステップS43とS44を繰り返すことで、フレームレートが「1」以下の場合に、内部メモリ106の空き容量に応じてビデオの解像度を減少させるための変数resolutionを求める。制御部201は、以上の処理によって得られた変数framerateとresolutionとを変換パラメータとし、それぞれフレームレート変換部205と解像度変換部204に送信する。

#### 【0047】

なお、今回はフレームレートを低下（ステップS41～S42）させてから、解像度を低下（ステップS43～S44）させたが、手順が逆であっても構わない。

また、フレームレート変換部205及び解像度変換部204による図7に示したビデオデータのフレームレート及び解像度の変換は、MPEG4-AVCエンコード部202が符号化を開始する前に1回だけ行うとしてもよいし、MPEG4-AVCエンコード部202による符号化中に、一定時間間隔で定期的にフレームレート変換部205及び解像度変換部204を起動して行うとしてもよい。

#### 【0048】

次に、内部メモリ106からデータバス207を通して外部にデータ転送する場合の信号変換部102の動作について説明する。図8は、内部メモリ106に格納されているデータを外部にデータ転送する場合の信号変換部102の動作を示すフローチャートである。記録再生端末103からデータ転送要求があると、制御部201は転送要求のあったデータが符号化データどうかを判定し（ステップS50）、符号化データでなければそのまま外部へ転送する（ステップS57）。転送要求のあったデータが符号化データならば、制御部201は、端末情報内の内蔵符号化装置情報から、転送要求のあったファイル形式を記録再生端末103で復号できるか否かを判断する（ステップS51）。記録再生端末103で復号できると判断すれば、符号化データを内部メモリ106から読み出し、そのまま外部へ出力する（ステップS57）。符号化データを記録再生端末103が復号できないと判断したならば、信号変換部102内のMPEG4-AVCデコード部203で復号できるかどうかを判定し（ステップS52）、復号できるならば、内部メモリ106から読み出した符号化データをMPEG4-AVCデコード部203に転送し、復号処理を行う。MPEG4-AVCデコード部203によって復号されたYUV形式のビデオデータは、ピクチャ毎にいったん内部メモリ106に格納される（ステップS53）。次に、制御部201は、端末情報内の最大データ転送量情報および解像度情報から、記録再生端末103に転送するビデオのフレームレートおよび解像度を変換するための変換パラメータを第二の所定の方法によって決定し（ステップS54）、決定した変換パラメータをそれぞれフレームレート変換部205と解像度変換部204とに送信する。解像度変換部204は、内部メモリ106からYUV形式のビデオを読み出し、制御部201から取得した変換パラメータに基づいて解像度変換を施し、フレームレート変換部205に変換後のビデオを転送する（ステップS55）。フレームレート変換部205は、解像度変換部204からビデオを受信し、制御部201から取得した変換パラメータに基づいてビデオのフレームレートを変更しながら、外部へ出力する（ステップS56）。記録再生端末103でもMPEG4-AVCデコード部203でも復号できない場合は、再生不可能の信号を外部に出力する（ステップS58）。

#### 【0049】

なお、ステップS58の再生不可能の信号は、記録再生端末103に再生ができないことが伝われば、エラー信号等のどのような方法であっても構わない。

次に、記録再生端末103に転送するビデオのフレームレートおよび解像度を変換するための変換パラメータを求める第二の所定の方法について説明する。図9は、変換パラメータを決定する制御部201の動作を示すフローチャートである。制御部201は、端末情報内の最大データ転送量情報と解像度情報とを用いて、図9のフローチャートに従い、変換パラメータを決定する。以下、図9のフローチャートを用いて変換パラメータの決め方を説明する。まず、初期値として、変数resolutionに、図4の解像度情報のID番号を設定する（ステップS60）。そして、最大データ転送量情報と変数resolutionに格納された解像度の画像サイズとから、記録再生端末に転送可能なフレームレートを求め、変数framerateに格納する（ステップS61）。例えば、最大データ転送量が4MByte/sec、解像度がVGAの場合、フレームレートは以下の式で求めることができる。

#### 【0050】

$$\text{framerate} = 4 \text{ Mbyte/sec} \div (640 \times 480 \times 1.5) \text{ Byte/frame} = 9.1 \text{ fps}$$

次に、変数framerateが「1」以下かどうかを判定し（ステップS62）、判定結果が真ならば変数resolutionの値を「1」減らす（ステップS63）。そして、変数resolutionが「0」よりも小さくなれば、転送不可能と判断し、終了する（ステップS64）。変数resolutionが「0」以上ならば、再びステップS61からS64を繰り返すことにより、フレームレートと解像度とを調整する。ステップS62で変数framerateが「1」より大きくなれば、フレームレートの最大値のクリッピングを行い（ステップS65とS66）、処理を終了する。制御部201は、以上の処理によって得られた変数framerateとresolutionを変換パラメータとし、それぞれフレームレート変換部205と解像度変換部2



0 4 とに送信する。

#### 【0 0 5 1】

なお、今回はステップS 6 2においてフレームレートの最小値を「1」としたが、「1」以上の値であっても構わない。また、ステップS 6 5とS 6 6においてフレームレートの最大値を「3 0」としたが、「3 0」以上の値であっても構わない。

#### 【0 0 5 2】

次に、解像度変換部2 0 4の構成について説明する。図1 0は、図2に示した解像度変換部2 0 4の内部構造を示したブロック図である。図1 0に示すように解像度変換部2 0 4は、制御部2 0 1から受信した変換パラメータにより解像度変換部を切り替える解像度変換判定部3 0 1と、L P F (Low Pass Filter)を適用した後、画素を間引くことによりダウンコンバートを行う画素間引き部3 0 2と、L P Fを用いて画素の補間を行うことによりアップコンバートを行う画素補間部3 0 3から成る。

#### 【0 0 5 3】

次に、解像度変換部2 0 4の動作について図1 1のフローチャートを用いて説明する。図1 1は、図1 0に示した解像度変換部2 0 4の動作を示すフローチャートである。まず、解像度変換判定部3 0 1は、初期値として、入力ビデオデータのヘッダから解像度を取得し、変数org-resolutionに設定する(ステップS 7 0)。そして、変数org-resolutionと変換パラメータresolutionの値を比較し、変換パラメータresolutionの方が大きければ、org-resolutionからresolutionへのアップコンバートを画素補間部3 0 3によって行う(ステップS 7 2)。変換パラメータresolutionの方が小さければ、org-resolutionからresolutionへのダウンコンバートを画素間引き部3 0 2によって行う(ステップS 7 3)。変換パラメータresolutionとorg-resolutionの値が同じならば解像度変換は行わない。以上の手順に従って、解像度変換部2 0 4は変換パラメータに基づいて入力ビデオの解像度変換を行う。なお、ステップS 7 2とS 7 4のアップコンバートおよびダウンコンバートの方法は、LPF等を用いて補間や間引きを行う方法であっても、画像の高域成分を復元する方法等であっても構わない。

#### 【0 0 5 4】

次に、フレームレート変換部2 0 5の構成について説明する。図1 2は、図5に示したフレームレート変換部2 0 5の内部構造を示したブロック図である。図1 2に示すようにフレームレート変換部2 0 5は、制御部2 0 1から受信した変換パラメータによりフレームレート変換部を切り替えるフレームレート変換判定部4 0 1と、L P Fを適用した後、フレームを間引くことによりフレームレートを低下させるフレーム間引き部4 0 2と、L P Fを用いてフレームの補間画像を作ることによりフレームレートを向上させるフレーム補間部4 0 3から成る。

#### 【0 0 5 5】

次にフレームレート変換部2 0 5の動作について図1 3のフローチャートを用いて説明する。図1 3は、図1 2に示したフレームレート変換部2 0 5の動作を示すフローチャートである。まず、フレームレート変換判定部4 0 1は、入力ビデオデータのヘッダからフレームレートを取得し、初期値として変数org-framerateに設定する(ステップS 8 0)。そして、変数org-framerateと変換パラメータframerateの値を比較し、変換パラメータframerateの方が大きければ、org-framerateからframerateへのアップコンバートをフレーム補間部4 0 3によって行う(ステップS 8 2)。変換パラメータframerateの方が小さければ、org-framerateからframerateへのダウンコンバートをフレーム間引き部4 0 2によって行う(ステップS 8 3)。変換パラメータframerateとorg-framerateの値が同じならばフレームレート変換は行わない。以上の手順に従って、フレームレート変換部2 0 5は変換パラメータに基づいて入力ビデオデータのフレームレート変換を行う。なお、フレームレートのアップコンバートおよびダウンコンバートの方法は、L P F等を用いてフレームの補間や間引きを行う方法であっても、同じフレームを繰り返して用いる方法等であっても構わない。

#### 【0 0 5 6】

以上に示した実施の形態１の構成によれば、記録再生端末１０３は、ＳＤスロット等の汎用スロットおよび端末情報を格納するメモリ等の格納部を保持すれば、内部に符号化装置を備えなくても、リムーバブル型符号化装置１００を挿入するだけで内蔵のカメラ等で撮影した映像の符号化および復号化を行うことができる。

#### 【００５７】

また、記録再生端末１０３にコーデックＬＳＩやソフトコーデックを搭載する必要がなくなり、コストの削減につながる。

また、符号化装置と符号化データ格納用メモリ（内部メモリ１０６）とを記録再生端末から取り外し可能にすることで、記録再生端末間のＡＶ連携をリムーバブル型符号化装置を交換するだけで行えるため、ＡＶ連携が容易となる。

#### 【００５８】

また、符号化装置と符号化データ格納用メモリを記録再生端末から取り外し可能にすることで、規格等で使用するコーデック手法に変更が生じた場合でも、新しいコーデック手法に対応したリムーバブル型符号化装置を挿入すれば、古い記録再生端末でも対応可能となる。

#### 【００５９】

また、符号化装置と符号化データ格納用メモリを記録再生端末から取り外し可能にすることで、ユーザは使用用途に応じてリムーバブル型符号化装置を交換することができ、ユーザ嗜好に基づいた記録再生端末１０３を提供することができる。

#### 【００６０】

また、端末情報取得部１０１により記録再生端末１０３のディスプレイ１０８に適当な解像度情報を取得することによって、リムーバブル型符号化装置１００は復号したビデオの解像度を記録再生端末１０３に合わせて変換することができる。これにより、リムーバブル型符号化装置１００を挿入する記録再生端末１０３毎に適当な解像度のビデオデータを出力することができる。

#### 【００６１】

また、記録再生端末１０３の持つ汎用スロットの最大転送量情報を取得することによって、リムーバブル型符号化装置１００は復号したビデオのフレームレートおよび解像度を転送量に応じて変換することができる。これにより、リムーバブル型符号化装置１００で復号したビデオデータを、記録再生端末１０３でリアルタイム再生する際に、データ転送量が足りない場合でも、フレームレートまたは解像度を低下させることによってリアルタイム再生が可能となる。また、データ転送量に余裕がある場合は、復号したビデオデータのフレームレートまたは解像度を上げることにより、より高画質なビデオデータを再生することができる。

#### 【００６２】

また、記録再生端末１０３の持つ内蔵符号化装置情報を取得し、記録再生端末１０３が復号できる符号化形式は符号化データとして転送することによって、サイズの大きい復号後のビデオを転送するよりも転送量を抑えることができる。

#### 【００６３】

また、記録再生端末１０３で作成した符号化データは、そのままリムーバブル型符号化装置１００内の内部メモリ１０６内に格納することが可能となり、複数の符号化形式で符号化された符号化データを内部メモリ１０６に保持することができる。

#### 【００６４】

また、リムーバブル型符号化装置１００の内部メモリ１０６量の残量に応じて、記録再生端末１０３から受信したビデオデータのフレームレートおよび解像度を低下させることによって、ビデオデータの記録中に内部メモリ１０６の残量がなくなることを防止できる。

#### 【００６５】

なお、今回の実施の形態では、コーデック手法としてＭＰＥＧ４－ＡＶＣを例として示したが、ＭＰＥＧ２やＭＰＥＧ４等のビデオコーデックであっても、ＡＭＲやＭＰＥＧ４

－A A C等のオーディオコーデックであっても構わない。

【0066】

なお、本実施の形態では、記録再生端末103には符号化装置が内蔵されていないとして説明したが、内蔵されていても構わない。

また、本実施の形態では記録再生端末103とリムーバブル型符号化装置100とのデータ転送部としてSDスロットを例として示したが、USBインターフェースやPCIスロット等の汎用スロットであっても構わない。

【0067】

また、端末情報格納部105は、記録再生端末103の保持するメモリの一部を使用しても構わない。

また、本実施の形態ではYUV形式のビデオデータを例として示したが、YY2やRGB等の他のビデオ形式であっても構わない。

【0068】

また、本実施の形態では内蔵符号化装置情報をMP EG2、MP EG4－SP、MP EG4－ASP等のコーデック手法で分類したが、より詳細にMP EG2符号化、MP EG2復号化、MP EG2コーデック等に分類しても構わない。

(実施の形態2)

本実施の形態2では、記録再生端末にMP EG4－SP復号化装置を備え、リムーバブル型符号化装置の信号変換部に、さらに、特定の符号化形式から他の符号化形式へ符号化形式の変換を行うビデオトランスコーディング部を備える点が実施の形態1と異なる。このビデオトランスコーディング部を備えることによって、記録再生端末が内蔵のMP EG4－SP復号化装置を経由してしかビデオデータを再生できない場合にも、符号化データを再生させることができるようになる。記録再生端末の接続スロットとしてSDスロットを備える点は、実施の形態1と同様である。

【0069】

図14は、実施の形態2の記録再生装置の一例を示すブロック図である。同図において、図1と同様の構成についてはすでに説明しているので、同一の参照符号を付し、説明を省略する。実施の形態2の記録再生装置は、リムーバブル型符号化装置1400及び記録再生端末1401を備える。リムーバブル型符号化装置1400は、信号変換部500を備える点が実施の形態1のリムーバブル型符号化装置100と異なる。また、記録再生端末1401は、MP EG4－SP復号化装置1402を備える点が実施の形態1の記録再生端末103と異なる。

【0070】

図15は、実施の形態2における信号変換部500の内部構造を示したブロック図である。図15に示すように信号変換部500は、端末情報取得部101からの端末情報によってトランスコーディング手法を制御する制御部502と、内部メモリ106部に格納されている符号化データのトランスコーディングを行うトランスコーディング部501と、符号化データの格納および作業用メモリとして用いる内部メモリ106と、MP EG4－AVCのエンコード処理を行うMP EG4－AVCエンコード部202と、MP EG4－AVCのデコード処理を行うMP EG4－AVCデコード部203と、ビデオの解像度変換を行う解像度変換部204と、ビデオのフレームレートを変換するフレームレート変換部205と、データバス207とから成る。

【0071】

次に、実施の形態2における信号変換部500の動作について図16を用いて説明する。図16は、トランスコーディングを行う場合の図15に示した信号変換部500の動作を示すフローチャートである。記録再生端末1401から内部メモリ106にデータ転送要求があると、制御部502は転送要求のあったデータが符号化データどうかを判定し(ステップS90)、符号化データでなければそのまま記録再生端末1401へ転送する(ステップS94)。転送要求のあったデータが符号化データならば、制御部502は端末情報内の内蔵符号化装置情報から転送要求のあったファイル形式を記録再生端末1401

が復号できるかを判断する（ステップS 9 1）。記録再生端末1 4 0 1が復号できると判断すれば、符号化データを内部メモリ1 0 6から読み出し、そのまま記録再生端末へ転送する（ステップS 9 6）。記録再生端末1 4 0 1が復号できない符号化データならば、信号変換部5 0 0内のトランスコーディング部5 0 1で記録再生端末1 4 0 1が復号できる符号化形式にトランスコーディングできないかを判断する（ステップS 9 2）。トランスコーディングできるならば、内部メモリ1 0 6から読み出した符号化データをトランスコーディング部5 0 1に転送し、内蔵符号化装置情報の符号化形式（例えば、MPEG 4-SP）へトランスコーディングした後、記録再生端末1 4 0 1に転送する（ステップS 9 3）。トランスコーディングできなければ、再生不可能信号を出力し、再生できないことを記録再生端末1 4 0 1に知らせる（ステップS 9 5）。

#### 【0 0 7 2】

以上の内容を例を用いて、具体的に説明する。例えば記録再生端末1 4 0 1から内部メモリ1 0 6内のMPEG 4-AVC形式の符号化データに対して転送要求が発生した場合、まず、制御部5 0 2は受信した端末情報の内蔵符号化装置情報から、記録再生端末1 4 0 1がMPEG 4-SP復号化装置1 4 0 2を備えていると判断する。次に、トランスコーディング部5 0 1でMPEG 4-AVCからMPEG 4-SPへのトランスコーディングが可能かどうかを判断し、可能ならばトランスコーディングを行い、作成したMPEG 4-SP形式の符号化データを出力する。記録再生端末1 4 0 1は、リムーバブル型符号化装置1 4 0 0からMPEG 4-SP形式の符号化データを受信し、内蔵するMPEG 4-SP復号化装置1 4 0 2でデコードして再生する。

#### 【0 0 7 3】

以上の実施の形態2により、記録再生端末1 4 0 1がMPEG 4-SP復号化装置1 4 0 2しか内蔵しておらず、かつ、リムーバブル型符号化装置1 4 0 0から受信したYUV形式のビデオを直接表示する表示部を備えていない場合でも、リムーバブル型符号化装置1 4 0 0でMPEG 4-SP形式の符号化データにトランスコーディングすることで、記録再生端末1 4 0 1のMPEG 4-SP復号化装置経由でMPEG 4-AVC等の符号化データを再生することができる。これにより、MPEG 4-AVC等の新しいコーデック形式に対応していない古い製品でも、SDスロット等の汎用スロットさえ保持していれば、実施の形態2のリムーバブル型符号化装置を用いることでMPEG 4-AVC等の新しいコーデック形式の符号化データを再生できる。

#### 【0 0 7 4】

なお、本実施の形態ではビデオトランスコーディング手法としてMPEG 4-AVCからMPEG 4-SPの変換を例として示したが、MPEG 2からMPEG 4へのビデオトランスコーディング等であっても、AMRやMPEG 4-AACへのオーディオトランスコーディングであっても構わない。

#### 【0 0 7 5】

また、本実施の形態では記録再生端末がMPEG 4-SP復号化装置を備えている例を示したが、他の符号化装置を備えていても構わない。

また、ここでは記録再生端末1 4 0 1とリムーバブル型符号化装置1 4 0 0のデータ転送部としてSDスロットを例として示したが、USBインターフェースやPCIスロット等の汎用スロットであっても構わない。

#### 【0 0 7 6】

また、記録再生端末1 4 0 1には、端末情報を格納しておくために端末情報格納部1 0 5という特別なメモリを備えておく必要はなく、記録再生端末1 4 0 1の保持するメモリの一部を端末情報格納部1 0 5として使用しても構わない。

（実施の形態3）

本実施の形態3の記録再生装置では、記録再生端末は実施の形態1と同様であるが、miniSDスロットにより、リムーバブル型符号化装置にminiSDカードを着脱可能に接続し、miniSDカードを内部メモリの代わりに使用する点が実施の形態1と異なる。なお、本実施の形態3では、リムーバブル型符号化装置の信号変換部としてMPEG 4-AVCコ

ーデック、記録再生端末の接続スロットとしてSDスロット、リムーバブル型符号化装置のメモリスロットとしてminiSDスロットを例とする。

#### 【0077】

本発明の実施の形態3のブロック図を図17および図18に示す。図17は、実施の形態3の記録再生装置の一例を示すブロック図である。図17に示すように、リムーバブル型符号化装置600には、新たにminiSDスロット604が備えられている。図18は、図17に示した信号変換部602の内部構成を示すブロック図である。図18に示すように、信号変換部602から内部メモリ106が除去されている。

#### 【0078】

実施の形態3の信号変換部602は、実施の形態1の内部メモリ106の代わりに、リムーバブル型符号化装置600のminiSDスロットに挿入されたminiSDカード606を、符号化データの格納および作業用メモリとして用いることによって、実施の形態1で説明した各処理部により、MPEG4-AVCのコーデック処理を行う。

#### 【0079】

以上のように、実施の形態3のリムーバブル型符号化装置600によれば、符号化データを格納する内部メモリがリムーバブル型符号化装置から取り外し可能となる。これにより、符号化データを格納するメモリの空き容量が不足した場合に、リムーバブル型符号化装置自体を取り替えないでも、miniSDカードなどの半導体メモリだけを交換することによって、新たなビデオの符号化および復号化を行うことができる。

#### 【0080】

なお、本実施の形態ではコーデック手法としてMPEG4-AVCを例として示したが、MPEG2やMPEG4等のビデオコーデックであってもよく、AMRやMPEG4-AAC等のオーディオコーデックであっても構わない。

#### 【0081】

また、ここでは記録再生端末とリムーバブル型符号化装置のデータ転送部としてSDスロットを例として示したが、USBインターフェースやPCIスロット等の汎用スロットであっても構わない。

#### 【0082】

また、ここではリムーバブル型符号化装置と半導体メモリとのデータ転送部としてminiSDスロットとを例として示したが、USBインターフェースやPCIスロット等の汎用スロットであっても構わない。

#### 【0083】

また、端末情報格納部は、記録再生端末の保持するメモリの一部を使用しても構わない。

また、本実施の形態ではYUV形式のビデオを例として示したが、YUY2やRGB等の他のビデオ形式であっても構わない。

#### 【0084】

また、本実施の形態では内蔵符号化装置情報をMPEG2、MPEG4-SP、MPEG4-ASP等のコーデック手法で分類したが、より詳細にMPEG2符号化、MPEG2復号化、MPEG2コーデック等に分類しても構わない。

(実施の形態4)

本実施の形態4の記録再生装置では、記録再生端末は実施の形態1と同様であるが、リムーバブル型符号化装置が符号化形式の異なる複数のエンコード部を備える点が実施の形態1と異なる。

#### 【0085】

図19は、実施の形態4の記録再生装置の一例を示すブロック図である。同図のように、リムーバブル型符号化装置2300は、複数のエンコード部を備えた信号変換部2301を備えている。図20は、図19に示した信号変換部2301の内部構成の一例を示すブロック図である。信号変換部2301は、記録再生端末103から受信したビデオデータを異なる符号化形式で符号化し、内部メモリ106に格納する処理部であって、内部メ

メモリ106、解像度変換部204、フレームレート変換部205、データバス207、制御部2401、MPEG4-ASPエンコード部2402、MPEG4-SPエンコード部2403、MPEG4-AVCエンコード部2404及びMPEG2エンコード部2405を備える。MPEG4-ASPエンコード部2402、MPEG4-SPエンコード部2403、MPEG4-AVCエンコード部2404及びMPEG2エンコード部2405は、それぞれ、MPEG4-ASP、MPEG4-SP、MPEG4-AVC及びMPEG2の符号化形式で、例えば、YUV形式で入力されるビデオデータを符号化する処理部である。

#### 【0086】

以上のように構成される信号変換部2301の具体的な動作について、図面を参照して説明する。図21は、信号変換部2301内の1つのエンコード部を用いてビデオデータを符号化する際の制御部2401の動作を示すフローチャートである。この処理は、図2のフローチャートのステップS12におけるより詳細な処理内容を示している。制御部2401は、記録再生端末103から受信したデータがビデオデータであれば、信号変換部2301に備えられているすべてのエンコード部にビデオデータの符号化を実行させる（S2001）。次いで、制御部2401は、各エンコード部で符号化された符号化データのビット数をカウントし（S2002）、カウントされたビット数が最も少なくなった符号化データを内部メモリ106に格納する（S2003）。具体的には、記録再生端末103から受信したデータがビデオデータであれば、制御部2401は、MPEG4-ASPエンコード部2402、MPEG4-SPエンコード部2403、MPEG4-AVCエンコード部2404及びMPEG2エンコード部2405のすべてに符号化を実行させ、それらのうち、符号量が最も少なくなった符号化データを内部メモリ106に格納する。

#### 【0087】

また、このほかに、信号変換部2301に備えられているエンコード部で実行することができる複数の符号化形式を提示して、その中から1つをユーザに選択させるようにしてもよい。図22は、ユーザに選択された符号化形式でビデオデータを符号化する場合の制御部2401の動作を示すフローチャートである。記録再生端末103から受信したデータがビデオデータであれば、制御部2401は、例えば、実行可能な符号化形式をディスプレイ108に一覧表示して、そのうちのどの符号化形式のエンコード部を使用して符号化を行うか、ユーザの選択を受け付ける（S2101）。ユーザによって、一覧表示された符号化形式の1つが選択されると（S2102）、選択された符号化形式に対応するエンコード部で符号化を実行させ（S2103）、符号化の結果得られた符号化データを内部メモリ106に格納する（S2104）。

#### 【0088】

以上のように、本実施の形態4の記録再生装置によれば、リムーバブル型符号化装置2300の信号変換部2301に、複数のコーデック手法で符号化を行う複数のエンコード部を備えるので、入力されるビデオデータに最適な、例えば、データの圧縮率の高いコーデック手法を選択して符号化を行うことができる。また、ユーザにとっては、ユーザの好みのコーデック手法を選択して符号化を行うことができるという効果がある。

#### 【0089】

なお、上記実施の形態4では、信号変換部2301に複数のエンコード部を備える場合についてのみ説明したが、同様にして、異なる符号化形式で符号化された符号化データを復号する複数のデコード部を備えるとしてもよい。また、複数のエンコード部と複数のデコード部とを備えるとしてもよい。このように、リムーバブル型符号化装置2300に複数のデコード部を備えておくことによって、例えば、様々な家電機器でインターネット等からダウンロードされたビデオデータを、リムーバブル型符号化装置2300を差し替えるだけでデコードすることができる。図23は、リムーバブル型符号化装置を交換するだけで家電機器間でのAV連携を行うAV連携ネットワークの一例を示す図である。図23に示すように、例えば、AV連携ネットワークは、冷蔵庫2201、テレビ2202、カ

ーナビゲーション 2203、電子レンジ 2204、PDA 2205 及び携帯電話機 2206 などを備える。これらの家電機器は、それぞれ、SD カードなどの IC カード 2200 を接続するためのカードスロット 2210 およびそのインタフェースを備えており、また、適宜ビデオデータを再生するためのモニターやスピーカなどを備えている。この IC カード 2200 は、上記実施の形態 1～4 のリムーバブル型符号化装置であり、もちろん、実施の形態 3 のようにミニカードスロットを備えていてもよい。同図のように、IC カード 2200 には、符号化されたビデオデータとそのビデオデータを復号するデコード部とが備えられているので、例えば、YUV 形式のビデオデータしか再生できない冷蔵庫 2201 や電子レンジ 2204 などであっても、ユーザは、それらのカードスロット 2210 に IC カード 2200 を差し込むだけで、IC カード 2200 に格納されているビデオを楽しむことができる。また、それらの家電機器が通信機能を備えており、例えば、インターネットなどから符号化された AV データをダウンロードした場合に、その AV データと符号化形式が一致するデコード部を備えていなくても、リムーバブル型符号化装置に復号可能な符号化形式であれば、カードスロット 2210 に IC カード 2200 を差し込むだけで復号することができる。

#### 【0090】

なお、上記実施の形態では、MPEG4-ASP エンコード部 2402、MPEG4-SP エンコード部 2403、MPEG4-AVC エンコード部 2404 及び MPEG2 エンコード部 2405 を備える場合について説明したが、信号変換部 2301 は、これらすべてを備えている必要はなく、これらのうち、2 つ以上を備えていればよい。また、これらとは異なる符号化形式のエンコード部やデコード部を備えるとしてもよい。

#### 【0091】

また、上記実施の形態に示した記録再生端末は、AV データなどの記録及び再生の両方を行う装置であることを前提として説明したが、表示だけを行う装置であってもよいし、記録だけを行う装置であってもよい。

#### 【0092】

なお、ブロック図（図 1、5、10、12、14、15、17、18、19、20 など）の各機能ブロックは典型的には集積回路である LSI として実現される。これらは個別に 1 チップ化されても良いし、一部又は全てを含むように 1 チップ化されても良い。例えばメモリ以外の機能ブロックが 1 チップ化されていても良い。

#### 【0093】

なお、ここでは、LSI としたが、集積度の違いにより、IC、システム LSI、スーパー LSI、ウルトラ LSI と呼称されることもある。

また、集積回路化の手法は LSI に限るものではなく、専用回路又は汎用プロセッサで実現してもよい。LSI 製造後に、プログラムすることが可能な FPG A (Field Programmable Gate Array) や、LSI 内部の回路セルの接続や設定を再構成可能なリコンフィギュラブル・プロセッサなどを利用しても良い。

#### 【0094】

さらには、半導体技術の進歩又は派生する別技術により LSI に置き換わる集積回路化の技術が登場すれば、当然、その技術を用いて機能ブロックの集積化を行ってもよい。例えば、バイオ技術の適応等が可能性としてありえる。

#### 【0095】

また、各機能ブロックのうち、符号化または復号化の対象となるデータを格納する手段だけ 1 チップ化せずに別構成としても良い。

#### 【産業上の利用可能性】

#### 【0096】

本発明は放送や通信および蓄積の分野において、映像や音声を記録再生する機器等として有用である。また、映像や音声を記録再生するための機能をワンチップに備えた集積回路としても有用である。また、静止画像記録再生機器等としても適用が可能である。本発明はさらに、AV データや符号化／復号化プログラムを記録した IC カードなどの記録媒

体としても有用である。

## 【図面の簡単な説明】

【0097】

【図1】 本発明の実施の形態1の記録再生装置の一例を表すブロック図である。

【図2】 記録再生端末からリムーバブル型符号化装置の内部メモリへデータを転送する際の記録再生装置の動作を示すフローチャートである。

【図3】 リムーバブル型符号化装置の内部メモリから記録再生端末へデータを転送する際の記録再生装置の動作を示すフローチャートである。

【図4】 (a)は、端末情報の記述の一例を示す表である。(b)は、端末情報に示される各項目のIDとIDが示す各項目の内容との関係を示す端末情報テーブルの一例を示す表である。

【図5】 本実施の形態1における信号変換部の内部構造を示したブロック図である。

【図6】 記録再生端末からデータが転送されてきた場合の信号変換部の動作を示すフローチャートである。

【図7】 ビデオデータの変換パラメータを求める場合の手順を示すフローチャートである。

【図8】 内部メモリに格納されているデータを外部にデータ転送する場合の信号変換部の動作を示すフローチャートである。

【図9】 変換パラメータを決定する制御部の動作を示すフローチャートである。

【図10】 図2に示した解像度変換部の内部構造を示したブロック図である。

【図11】 図10に示した解像度変換部の動作を示すフローチャートである。

【図12】 図5に示したフレームレート変換部の内部構造を示したブロック図である。

【図13】 図12に示したフレームレート変換部の動作を示すフローチャートである。

【図14】 実施の形態2の記録再生装置の一例を示すブロック図である。

【図15】 実施の形態2における信号変換部の内部構造を示したブロック図である。

【図16】 トランスコーディングを行う場合の図15に示した信号変換部の動作を示すフローチャートである。

【図17】 実施の形態3の記録再生装置の一例を示すブロック図である。

【図18】 図17に示した信号変換部の内部構成を示すブロック図である。

【図19】 実施の形態4の記録再生装置の一例を示すブロック図である。

【図20】 図19に示した信号変換部の内部構成の一例を示すブロック図である。

【図21】 信号変換部内の1つのエンコード部を用いてビデオデータを符号化する際の制御部の動作を示すフローチャートである。

【図22】 ユーザに選択された符号化形式でビデオデータを符号化する場合の制御部の動作を示すフローチャートである。

【図23】 リムーバブル型符号化装置を交換するだけで家電機器間でのAV連携を行うAV連携ネットワークの一例を示す図である。

【図24】 第1の例である従来の携帯型データ再生装置の構成を示すブロック図である。

【図25】 第2の例である従来の動画像エンコードシステムの構成を示すブロック図である。

## 【符号の説明】

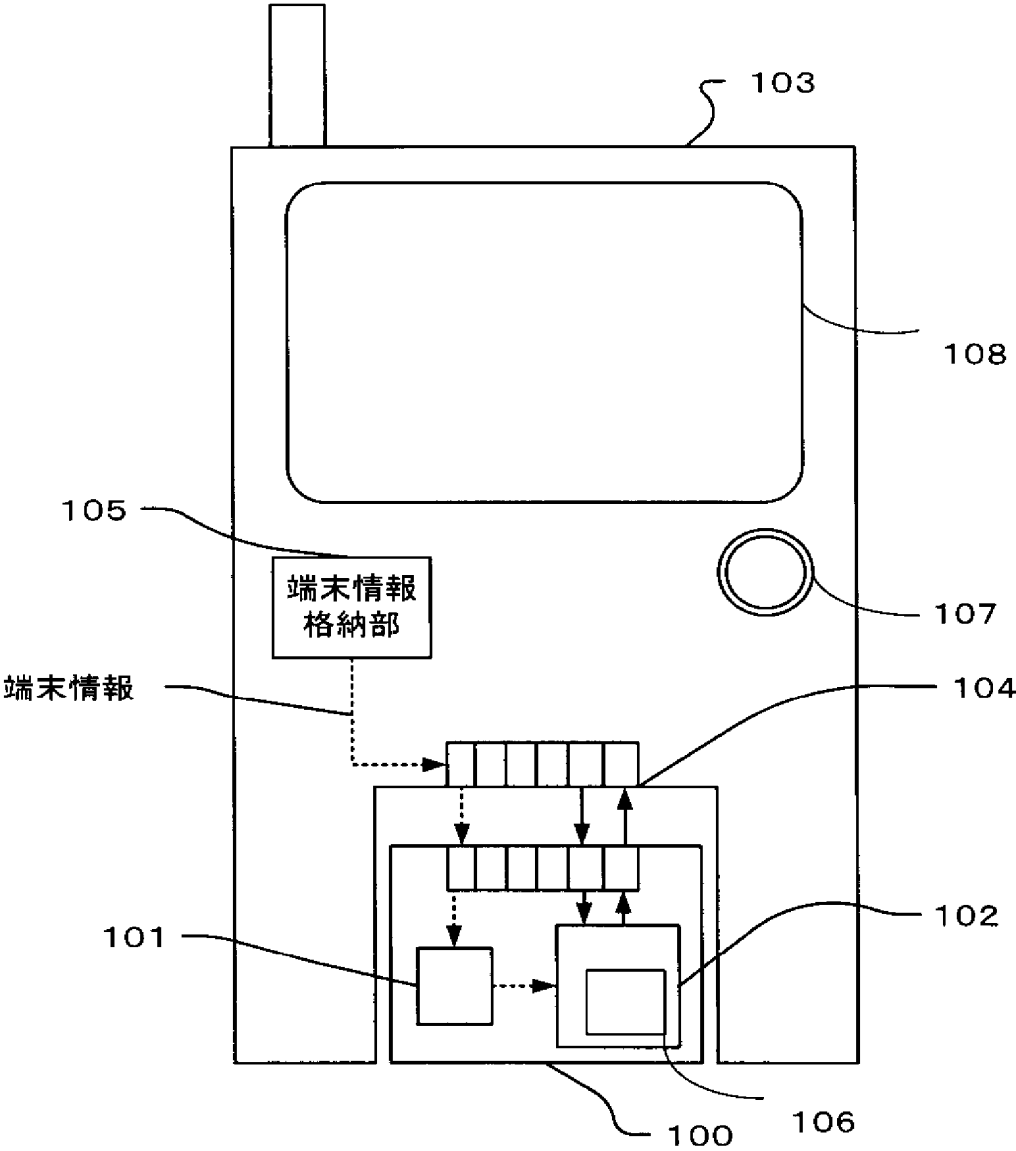
【0098】

100	リムーバブル型符号化装置
101	端末情報取得部
102	信号変換部
103	記録再生端末
104	SDスロット

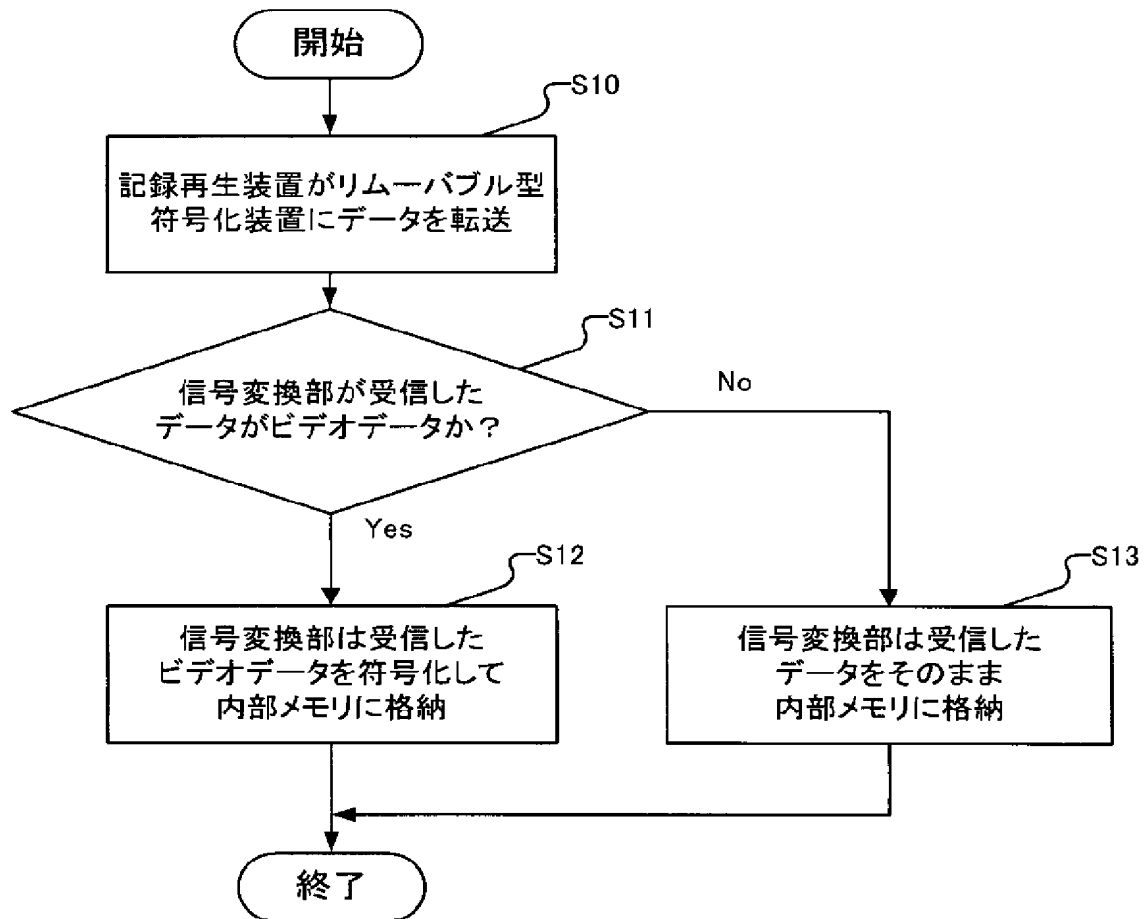


1 0 5	端末情報格納部
1 0 6	内部メモリ
1 0 7	カメラ
1 0 8	ディスプレイ
2 0 1	制御部
2 0 2	MPEG-AVCエンコード部
2 0 3	MPEG-AVCデコード部
2 0 4	解像度変換部
2 0 5	フレームレート変換部
2 0 7	データバス
3 0 1	解像度変換判定部
3 0 2	部
3 0 3	画素補間部
4 0 1	フレームレート変換判定部
4 0 2	部
4 0 3	フレーム補間部
5 0 0	信号変換部
5 0 1	トランスコーディング部
5 0 2	制御部
6 0 0	リムーバブル型符号化装置
6 0 2	信号変換部
6 0 4	miniSDスロット
6 0 6	miniSDカード
7 0 0	携帯型データ再生装置
7 0 1	半導体メモリカード
7 0 2	デコード手段
7 0 3	メモリ
8 0 2	ビデオキャプチャボード
8 0 3	エンコードカード
8 0 4	カード間ダイレクトバス
8 0 5	バス
8 0 7	メモリ
8 0 8	CPU
1 4 0 0	リムーバブル型符号化装置
1 4 0 1	記録再生端末
1 4 0 2	MPEG-SP復号化装置
2 2 0 0	ICカード
2 2 0 1	冷蔵庫
2 2 0 2	テレビ
2 2 0 3	カーナビゲーション
2 2 0 4	電子レンジ
2 2 0 5	PDA
2 2 0 6	携帯電話機
2 2 1 0	カードスロット
2 3 0 0	リムーバブル型符号化装置
2 3 0 1	信号変換部
2 4 0 1	制御部
2 4 0 2	MPEG-ASPエンコード部
2 4 0 3	MPEG-SPエンコード部
2 4 0 4	MPEG-AVCエンコード部

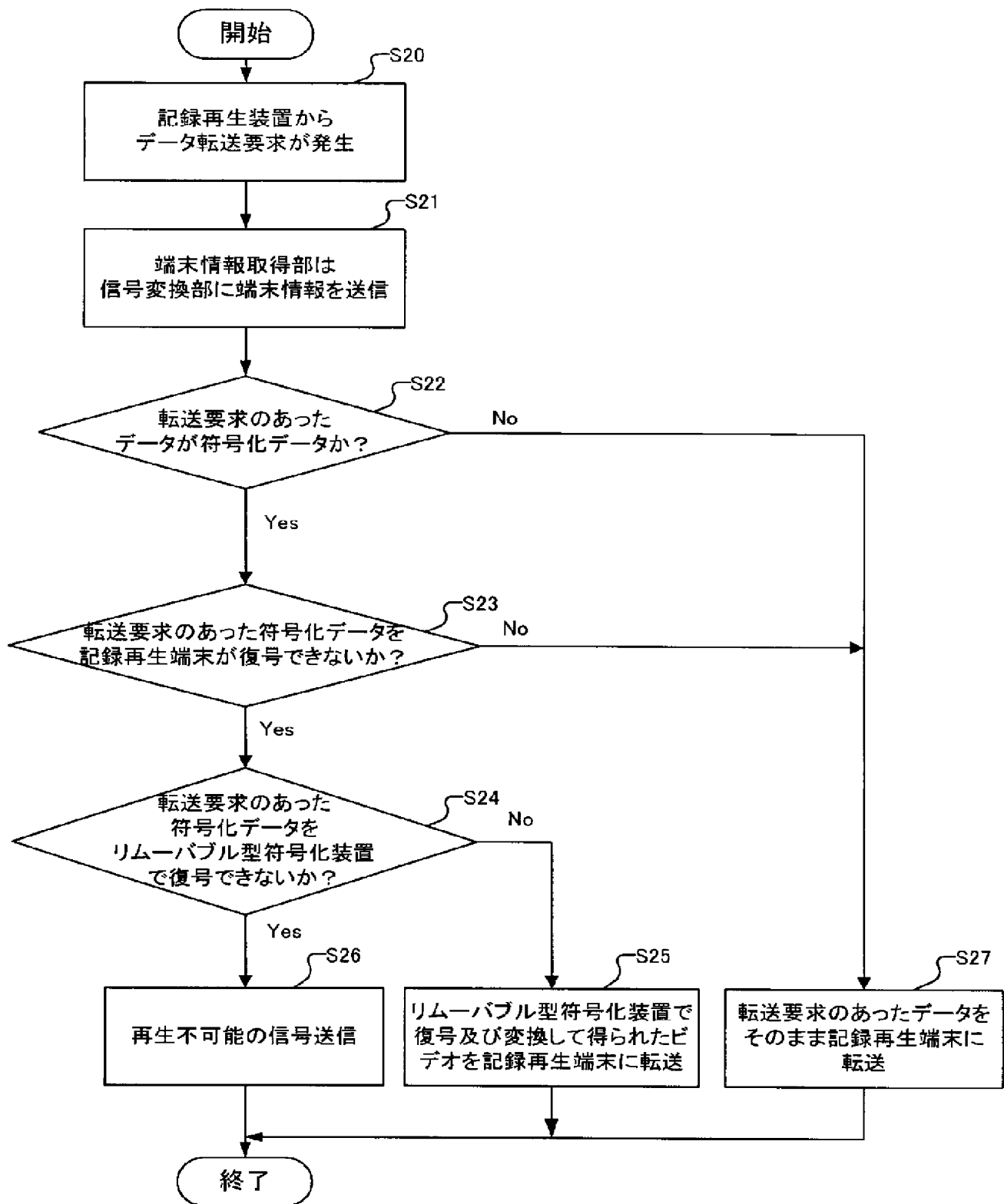




【図 2】



【図 3】



【図 4】

(a)

端末情報	ID
最大データ転送量情報	2
解像度情報	2
内蔵符号化装置情報	0

(b)

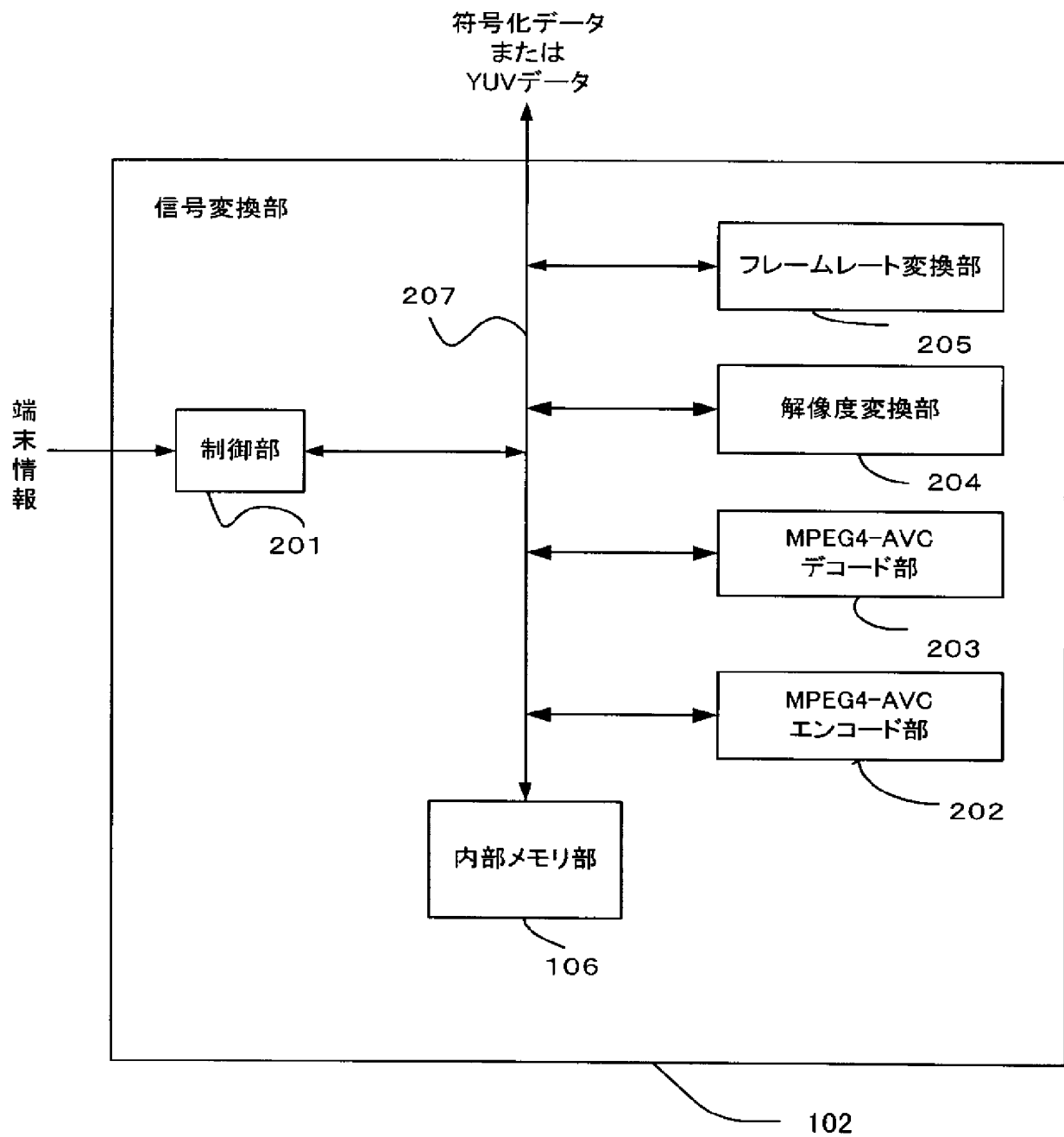
ID	最大データ転送量情報
0	2MByte/sec
1	4MByte/sec
2	8MByte/sec

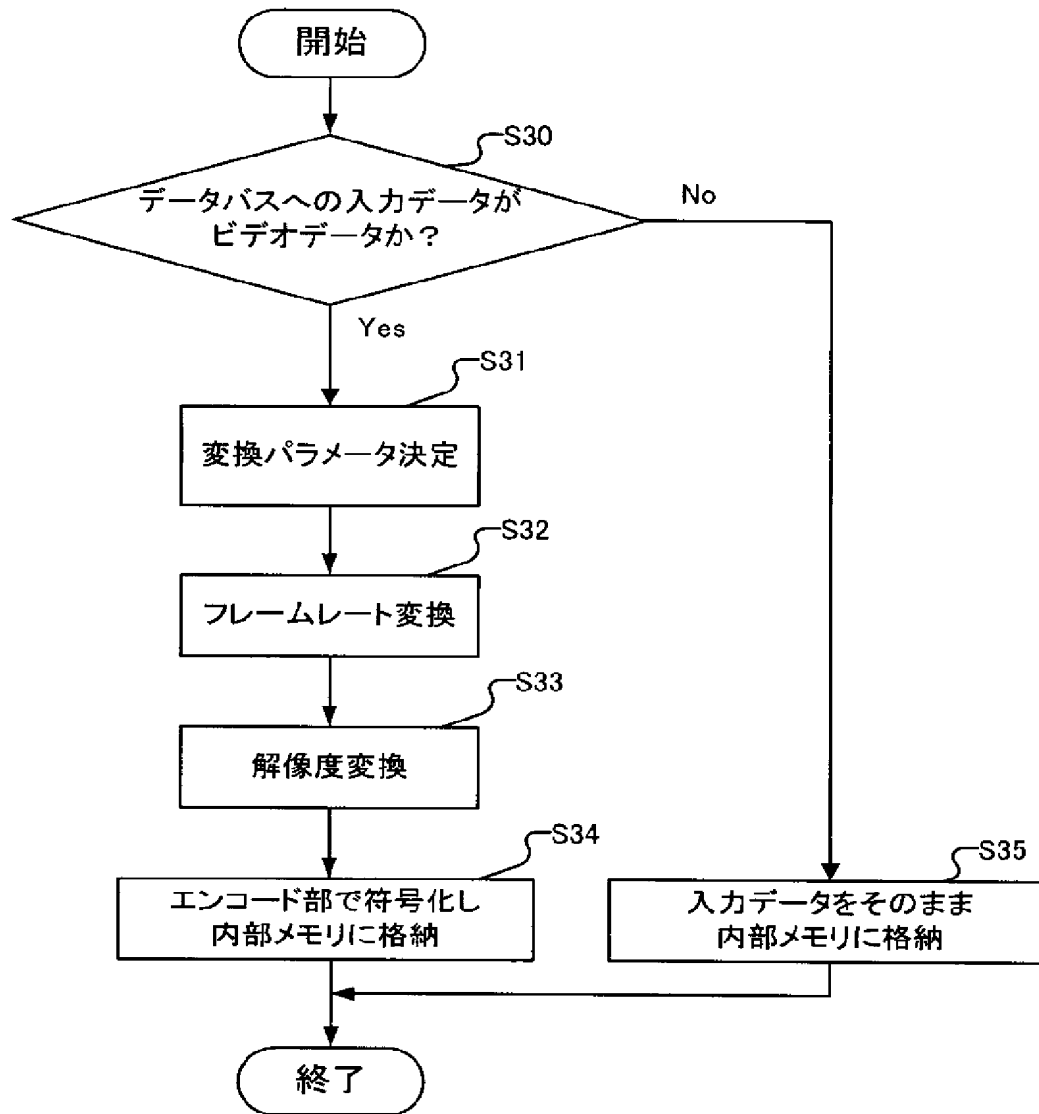
ID	解像度情報
0	SubQCIF
1	QCIF
2	QVGA
3	VGA
4	SD

ID	内蔵符号化装置情報
0	内蔵せず
1	MPEG2
2	MPEG4-SP
3	MPEG4-ASP

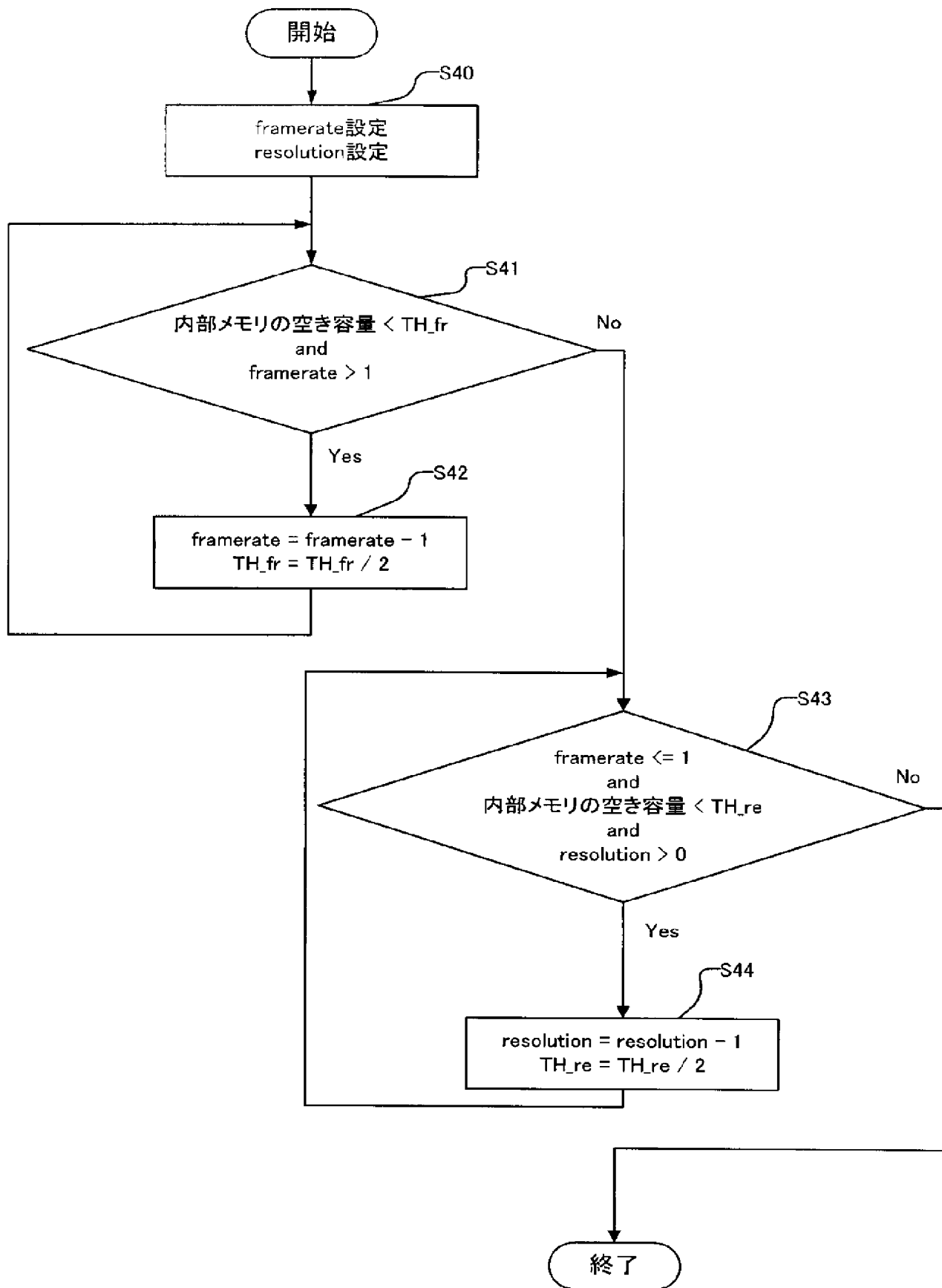


【図 6】

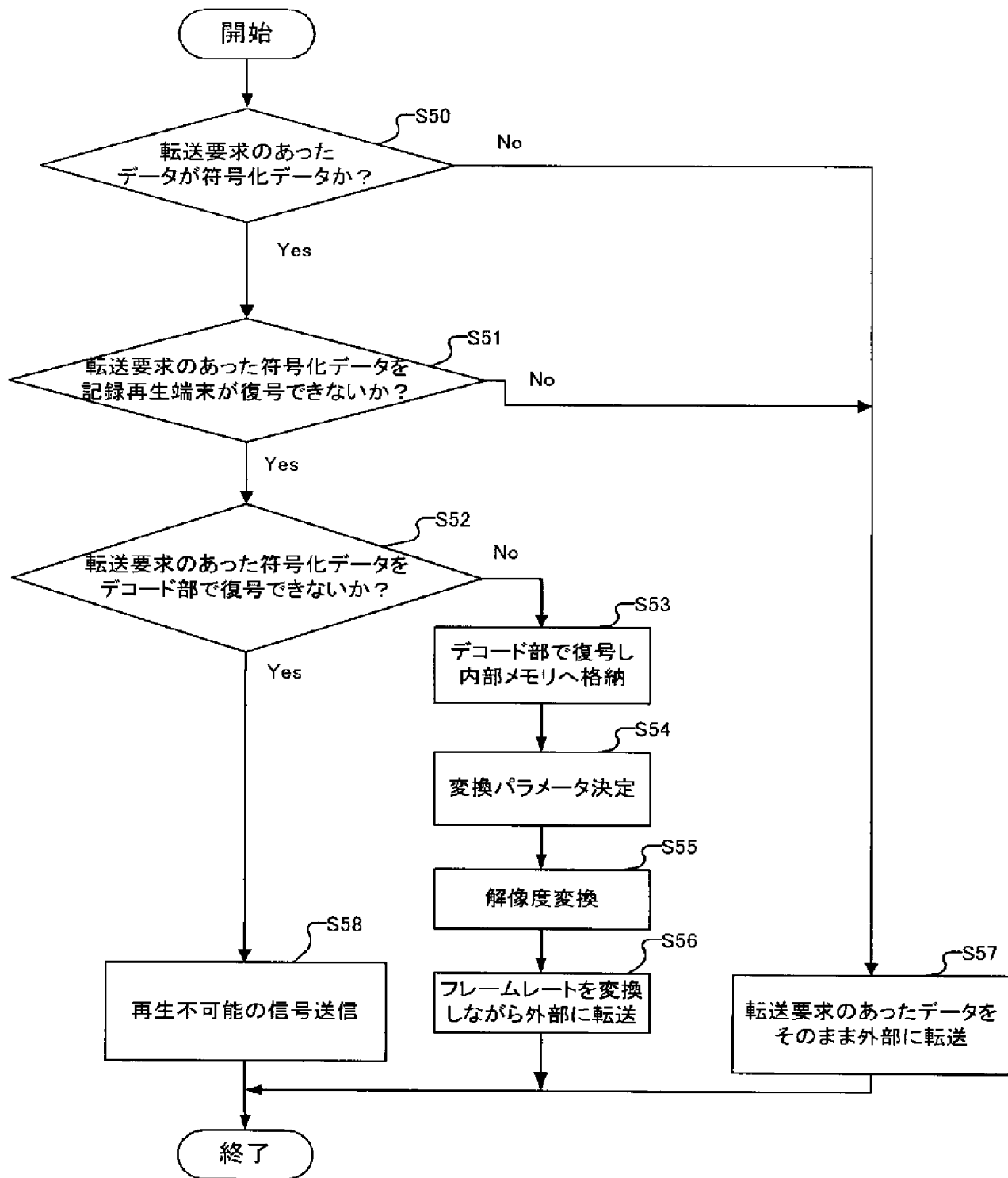




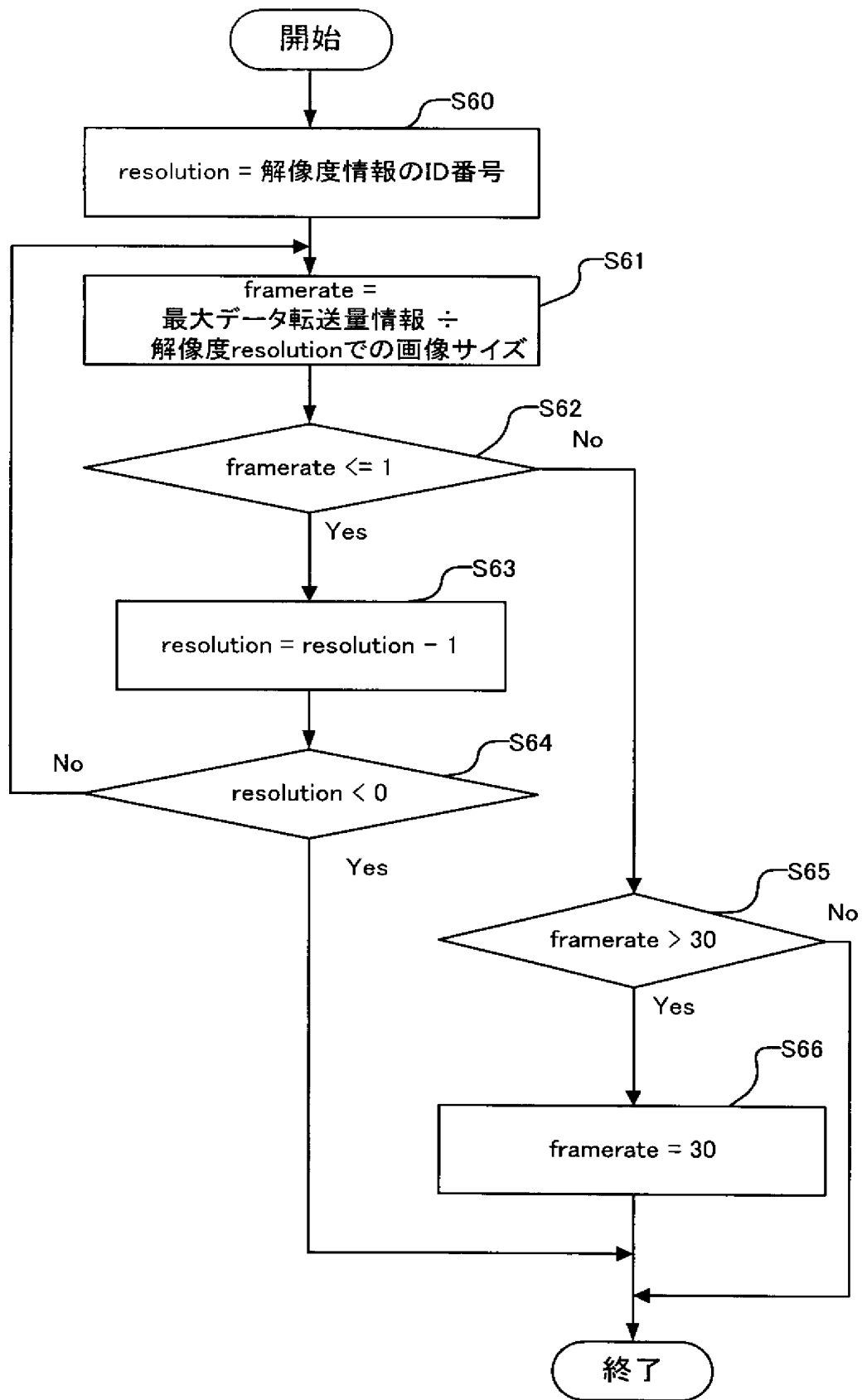
【図 7】



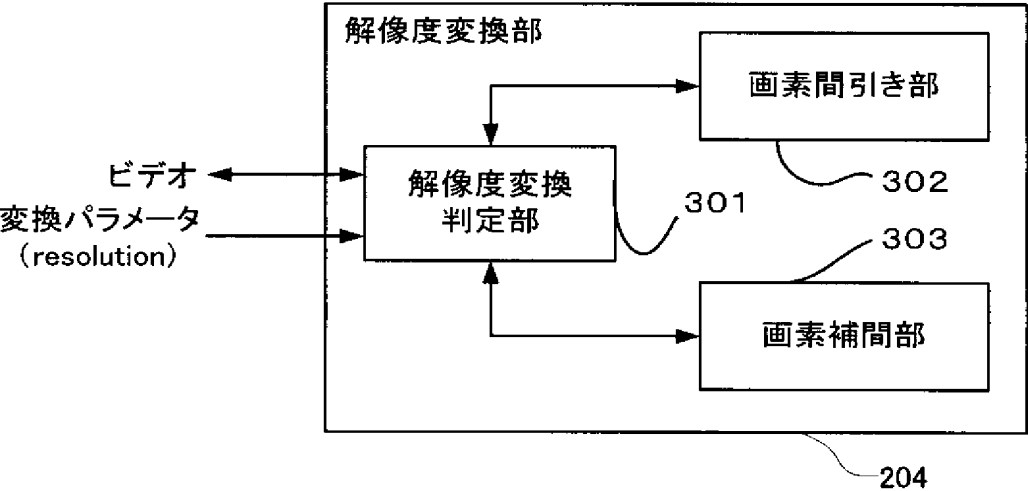
【図 8】

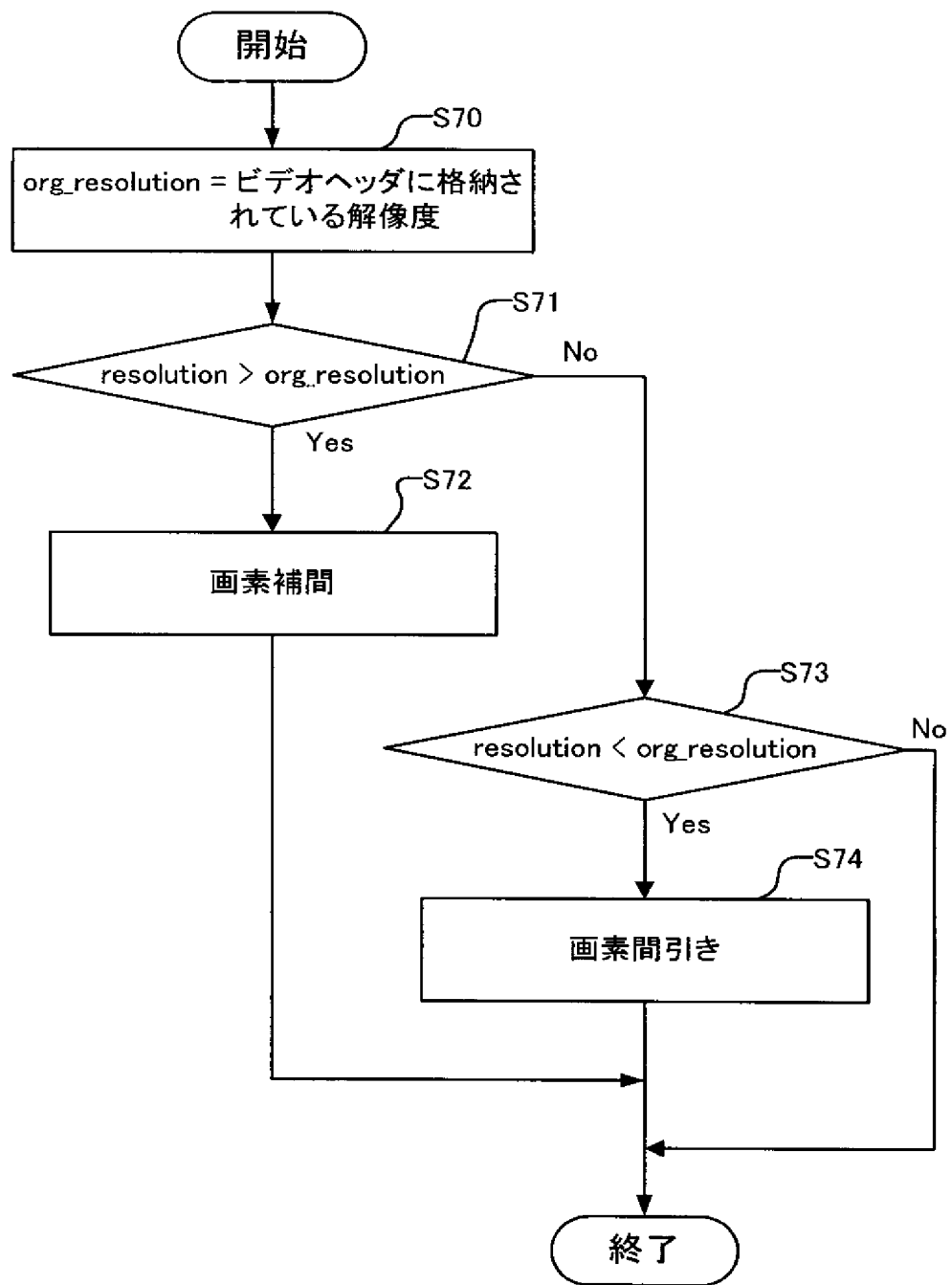


【図 9】

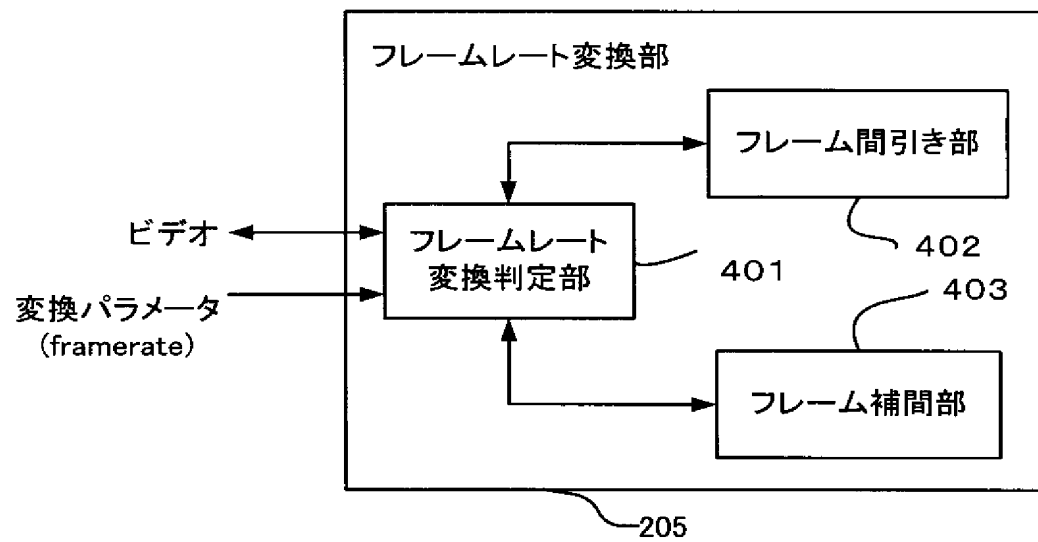


【図 10】

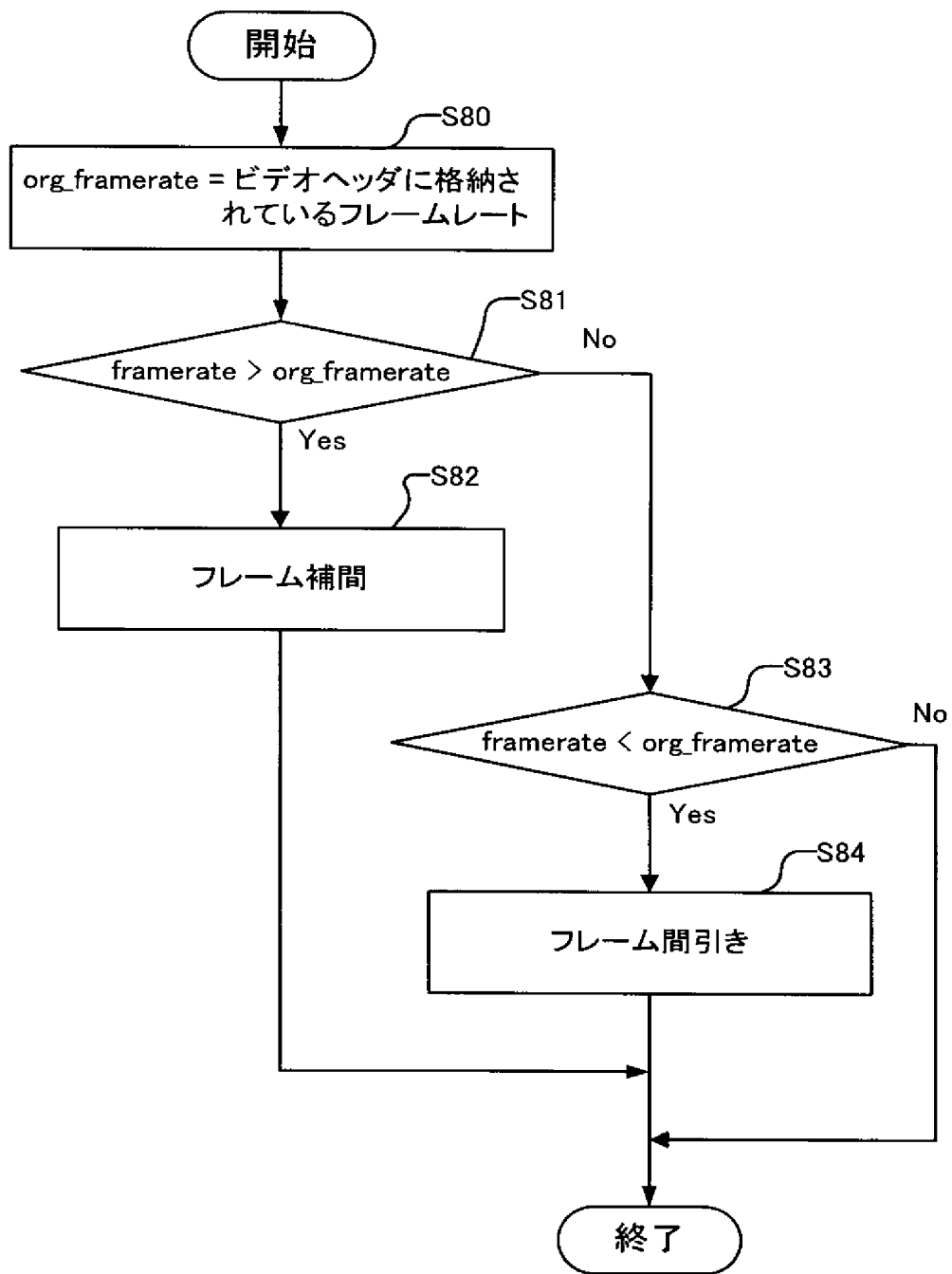




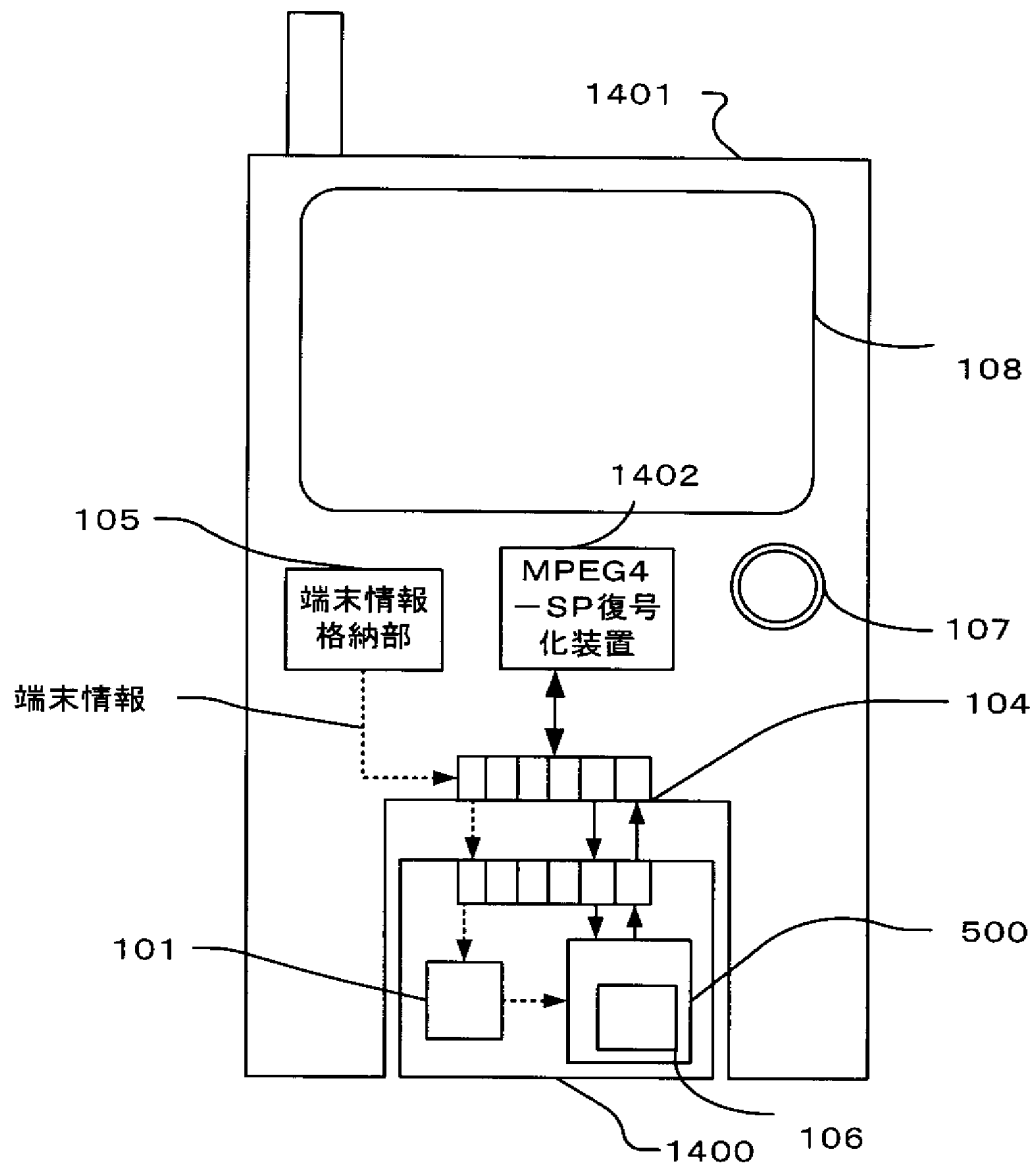
【図 1 2】



【図 13】

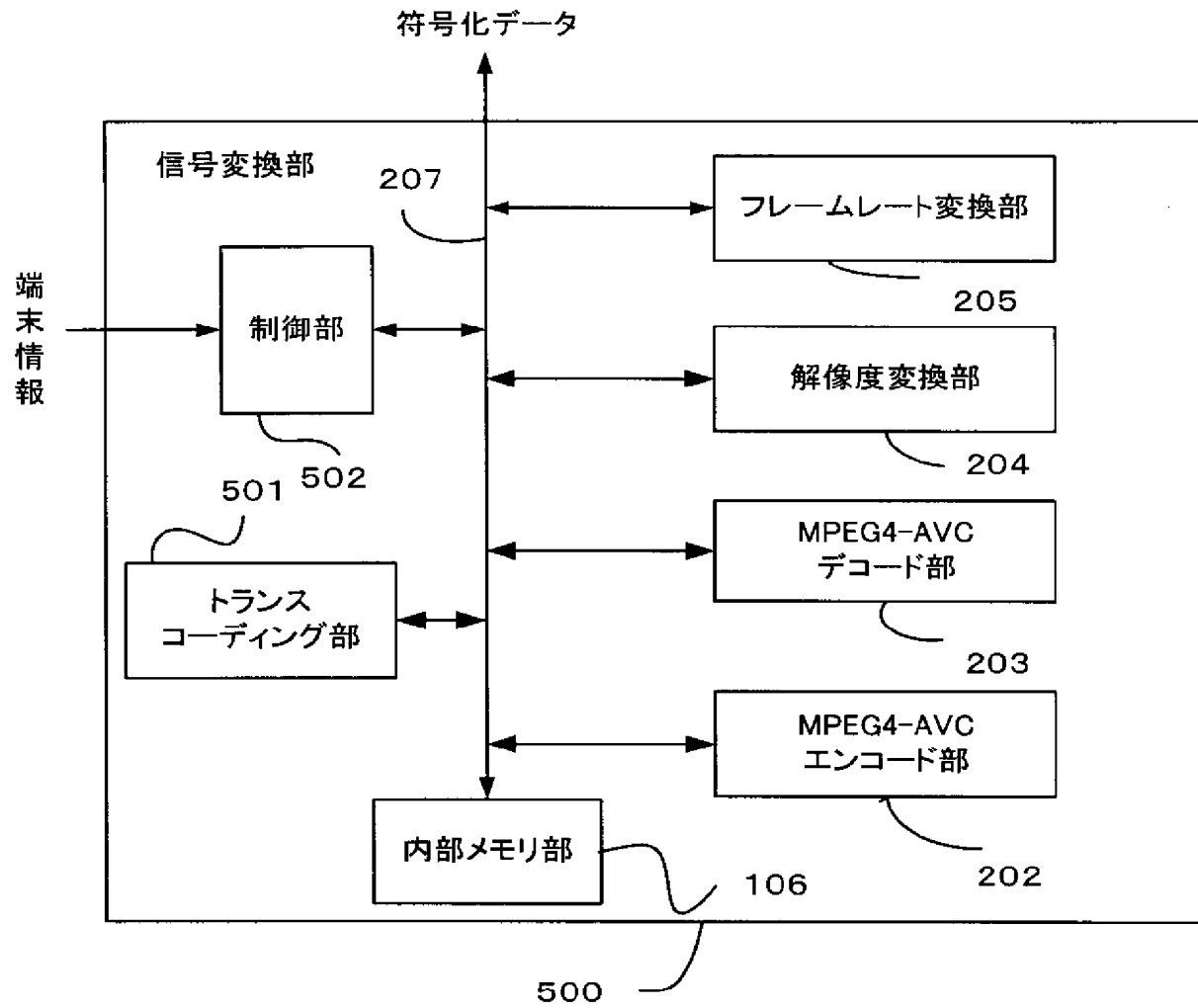


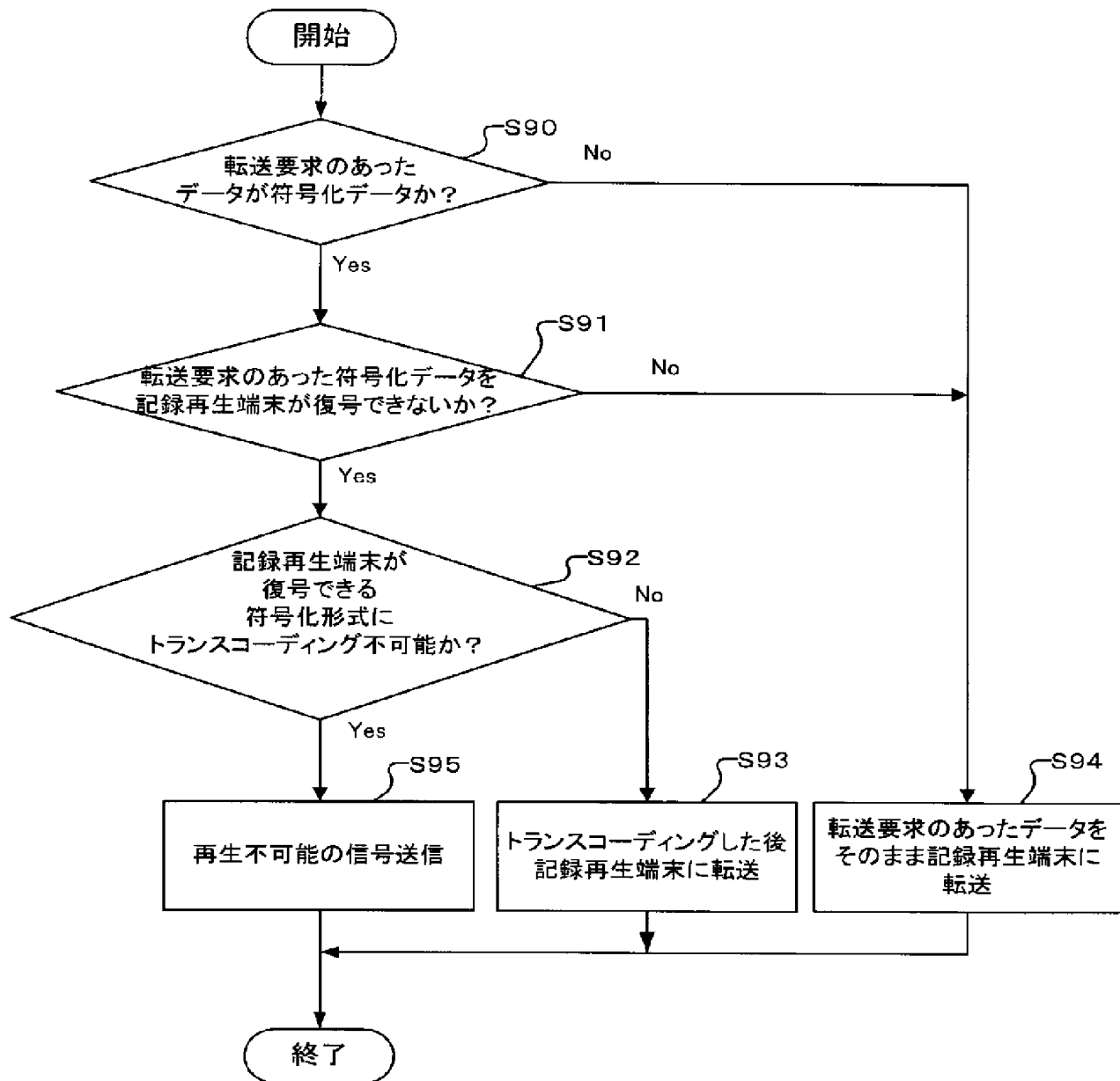
【図 14】

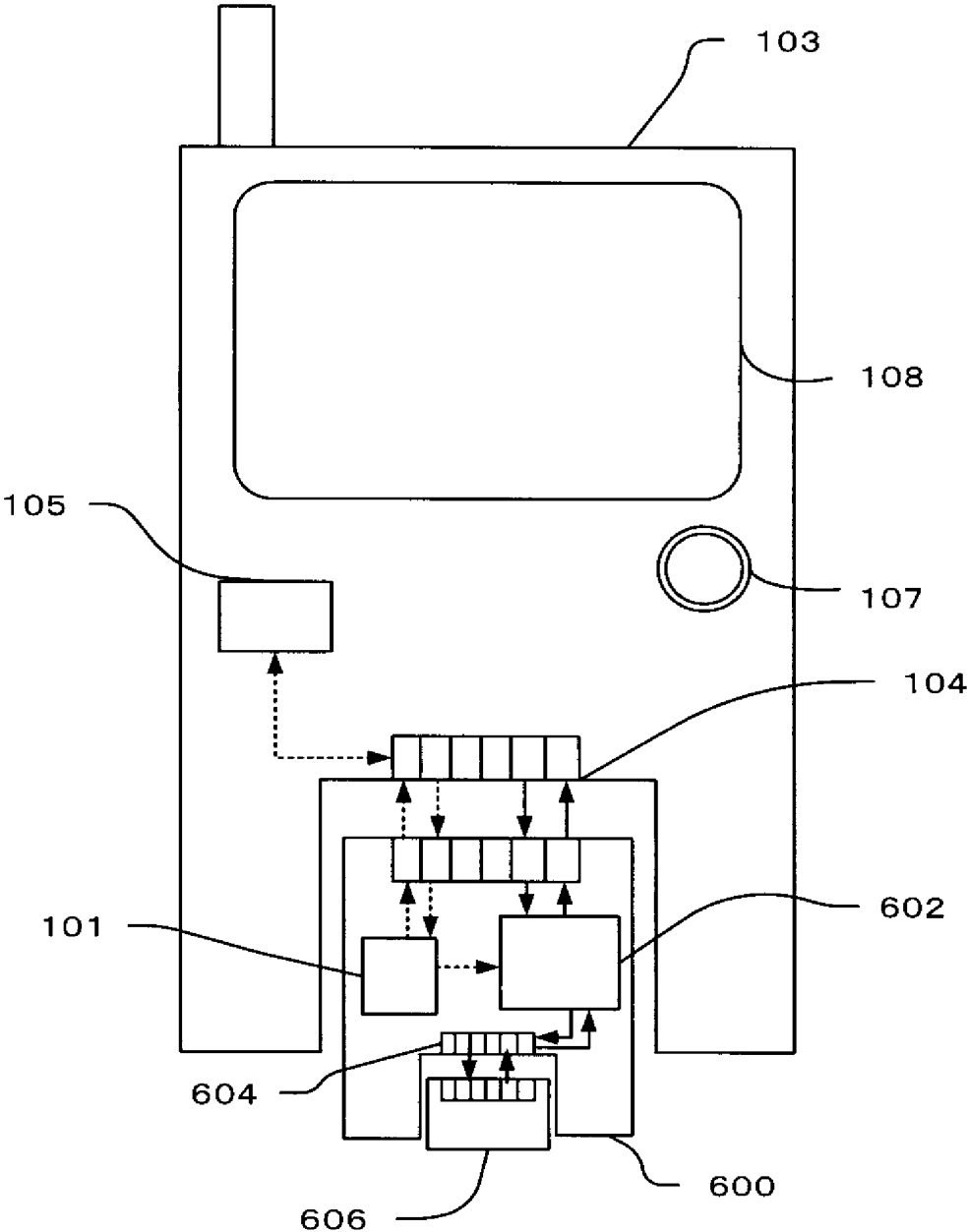




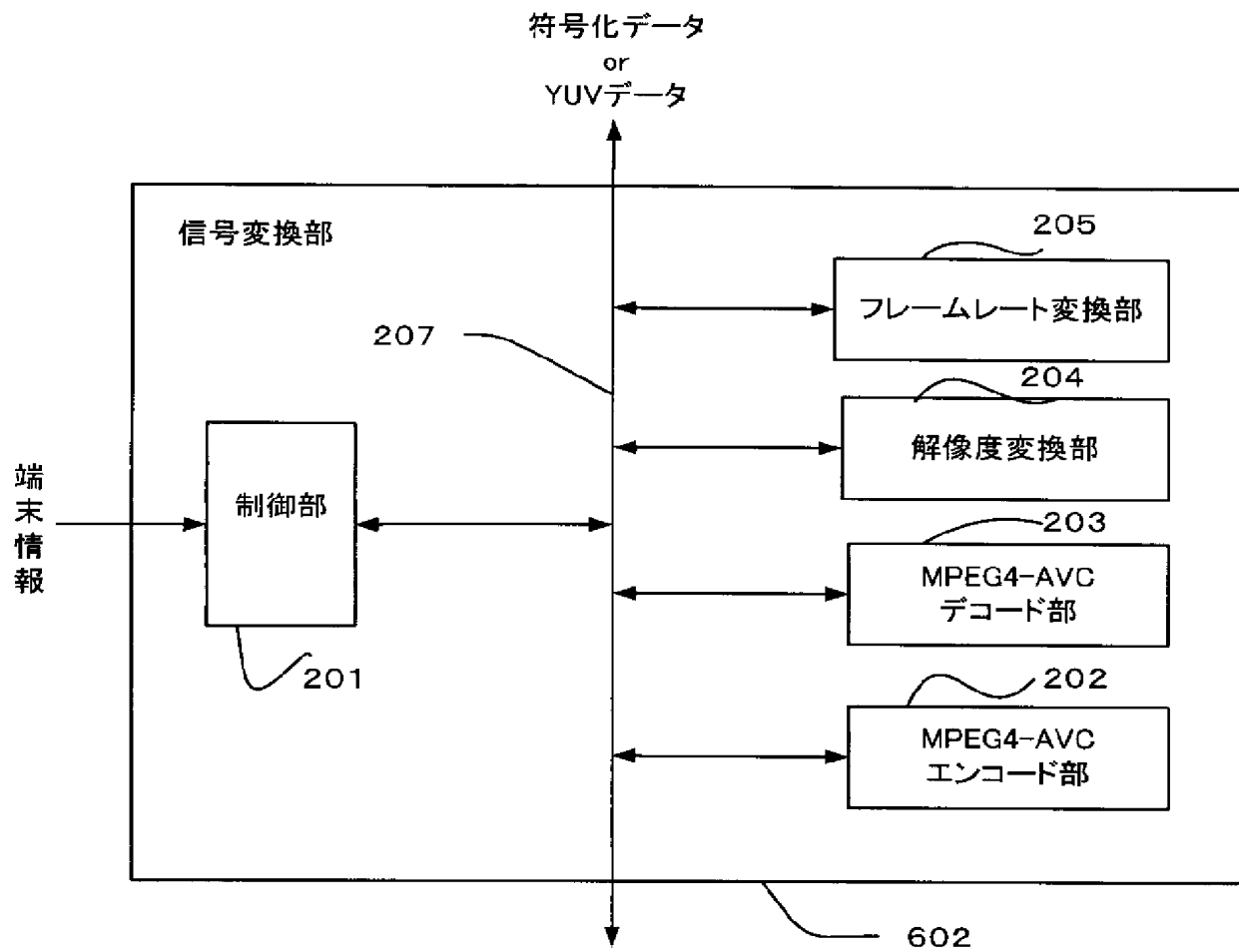
【図 15】



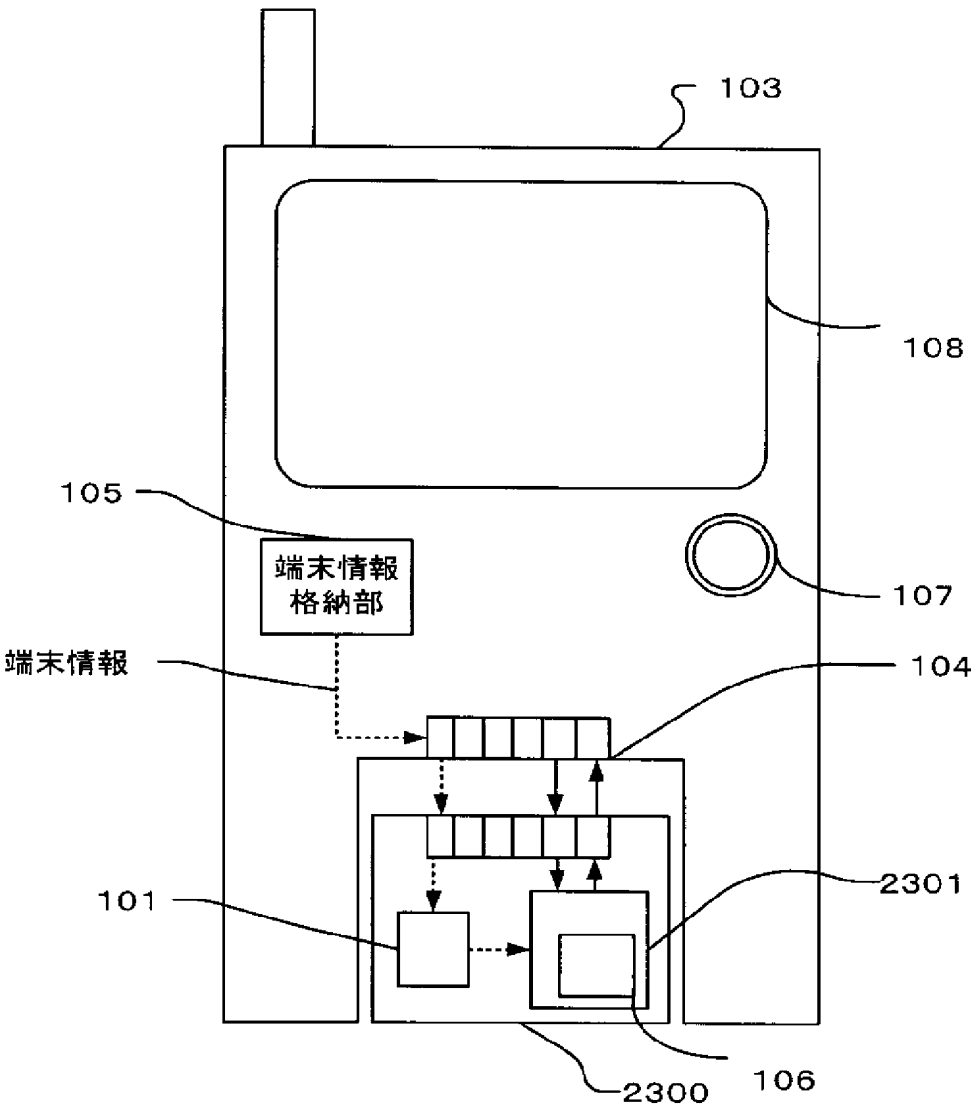


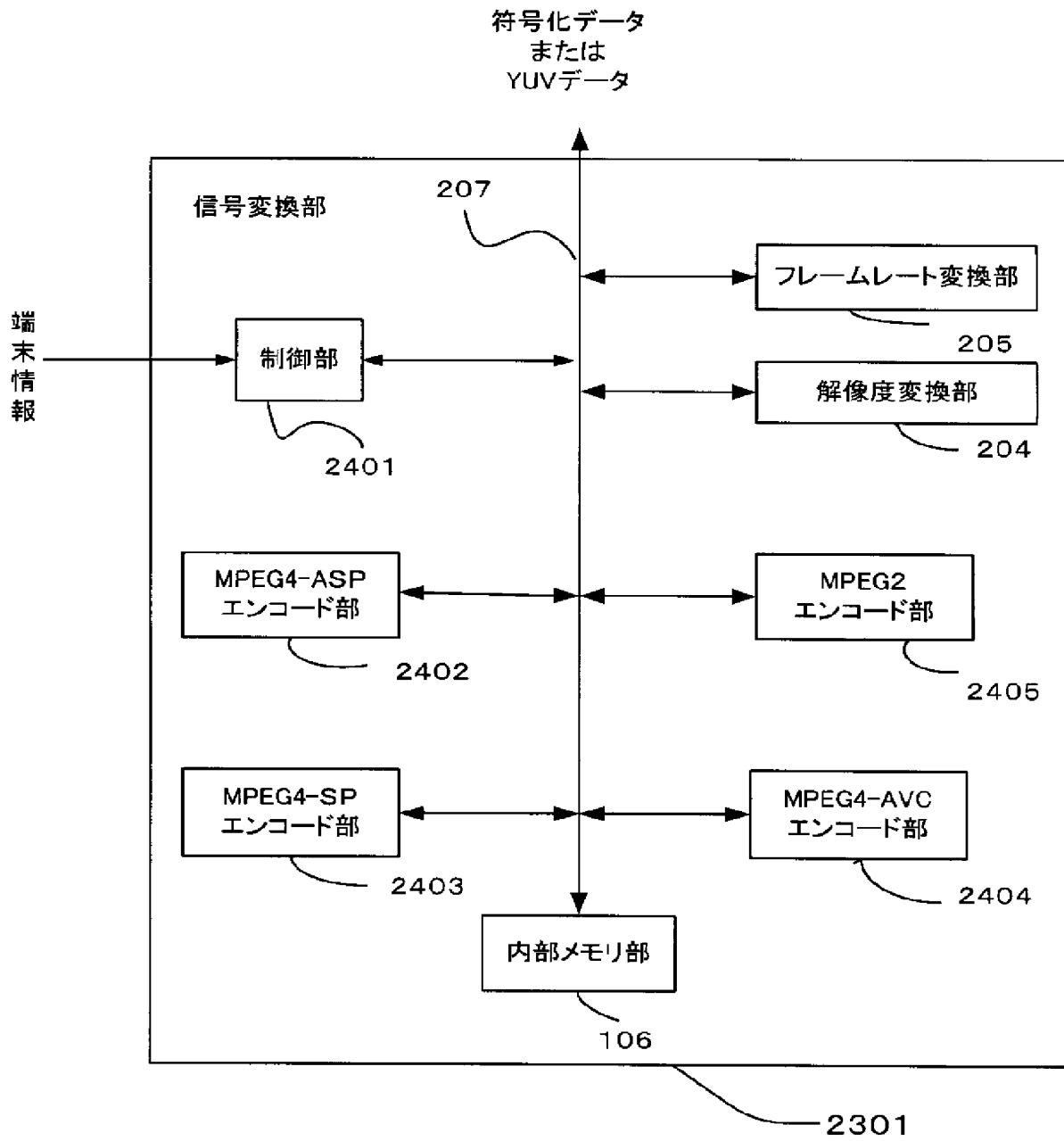


【図 18】

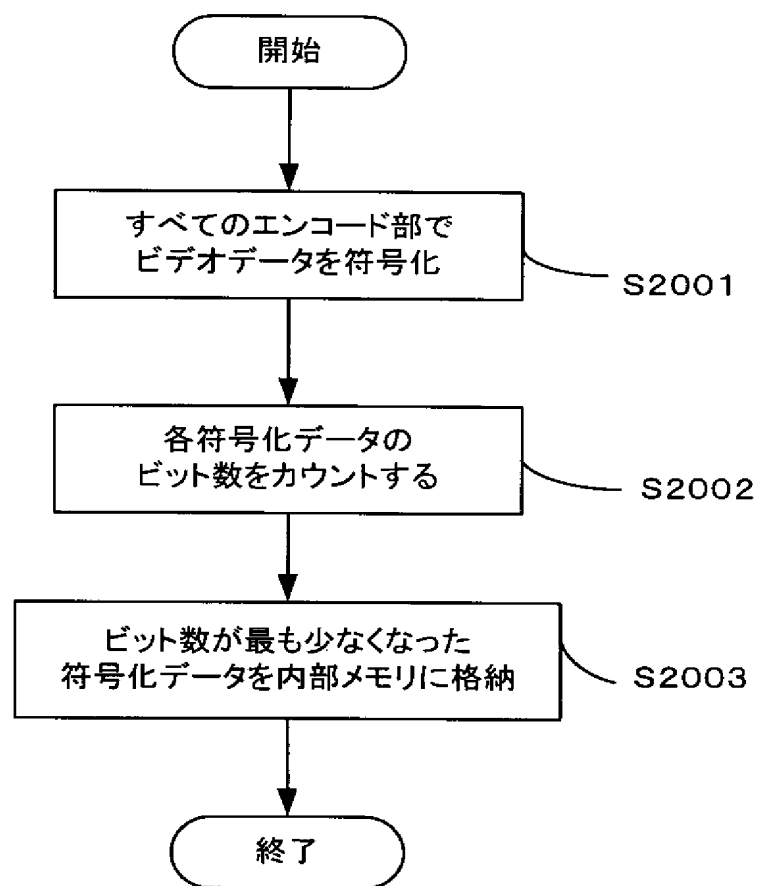


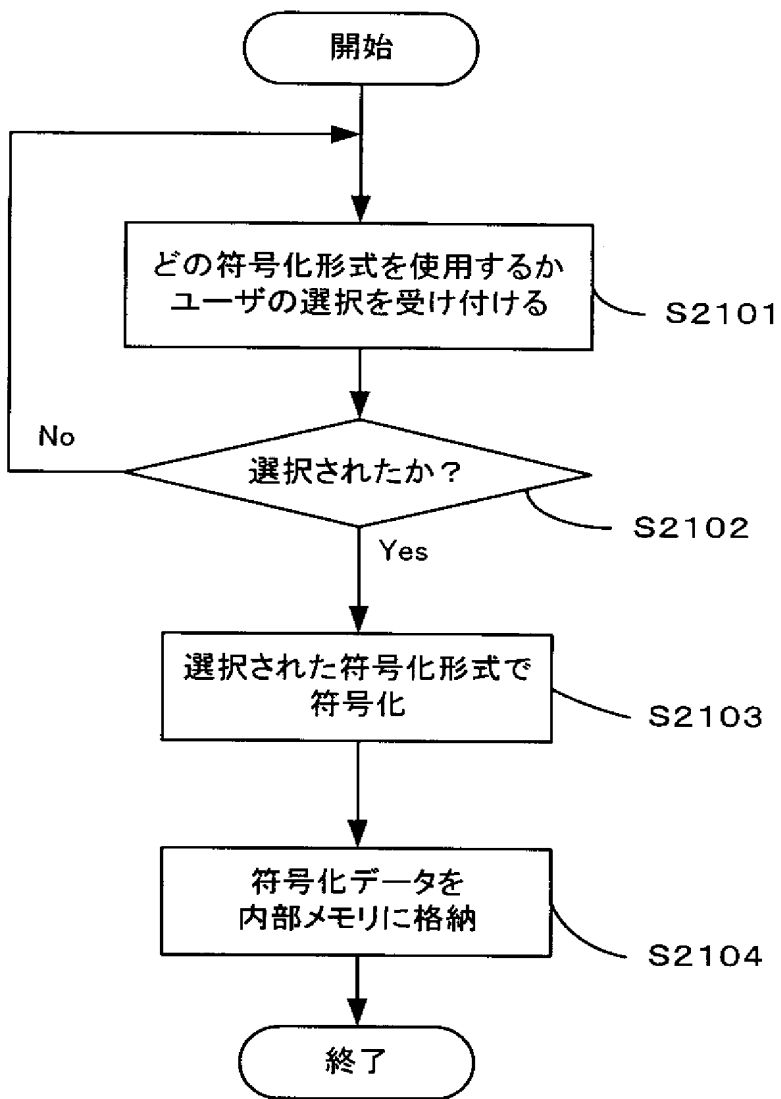
【図 19】



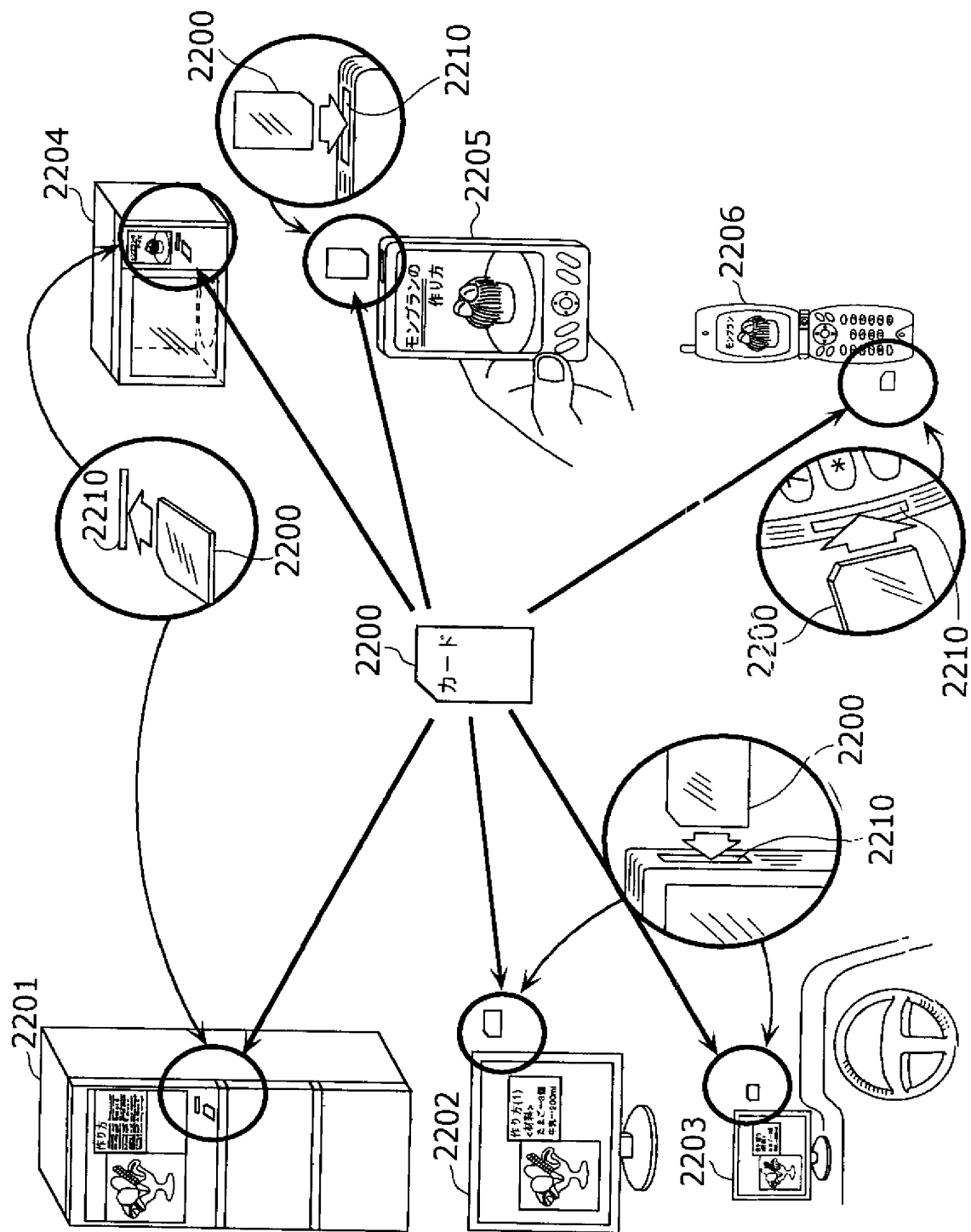


【図 2 1】

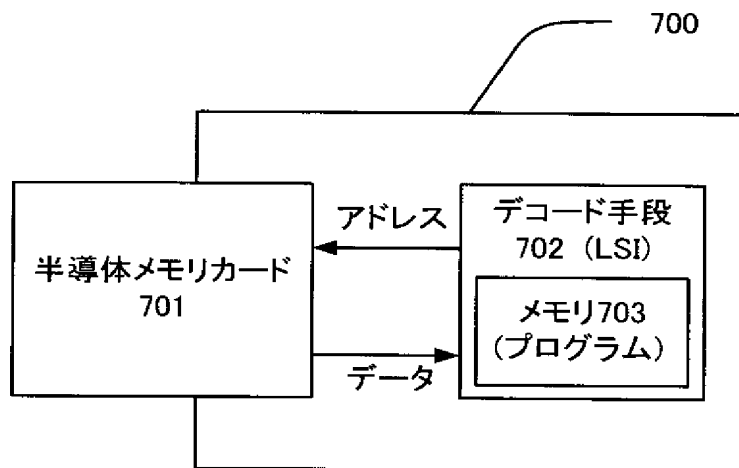




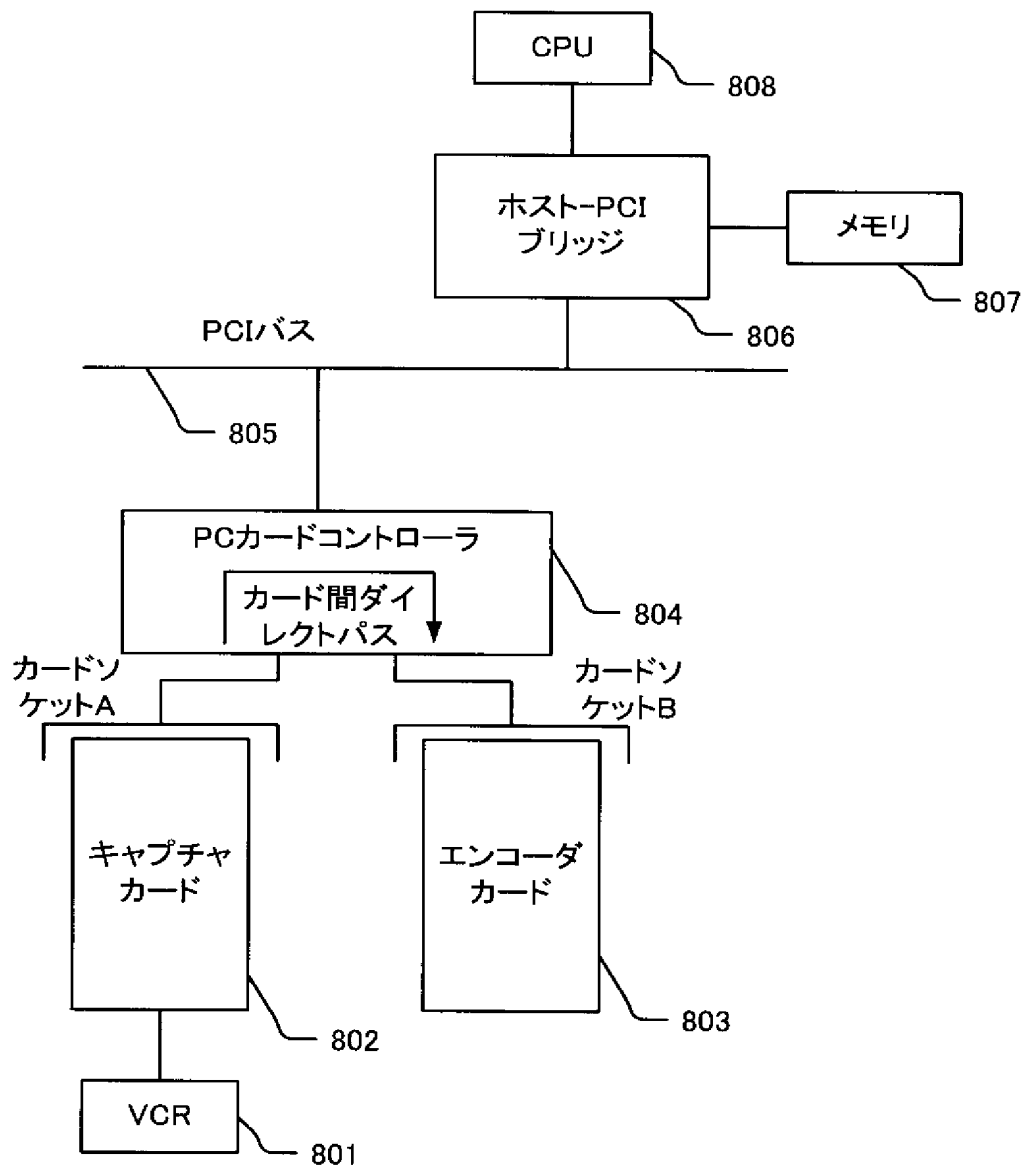




【図 2 4】



【図 25】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は、汎用スロットを持つ記録再生端末に、取り外し可能な符号化または復号化装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 音声または画像を表す信号を記録または再生する記録再生端末１０３と、記録再生端末１０３に着脱自在に接続されるリムーバブル型符号化装置１００とを備える記録再生装置であって、記録再生端末１０３は、記録再生端末１０３に関する情報である端末情報を格納する端末情報格納部１０５を備え、リムーバブル型符号化装置１００は、記録再生端末１０３に接続されると、端末情報を記録再生端末１０３から取得する端末情報取得部１０１と、取得された端末情報に基づいて、音声または画像を表す信号を符号化または復号化する信号変換部１０２とを備える。

【選択図】 図１

## 出願人履歴

0 0 0 0 0 5 8 2 1

19900828

新規登録

大阪府門真市大字門真1 0 0 6 番地

松下電器産業株式会社